

## IV 調査結果

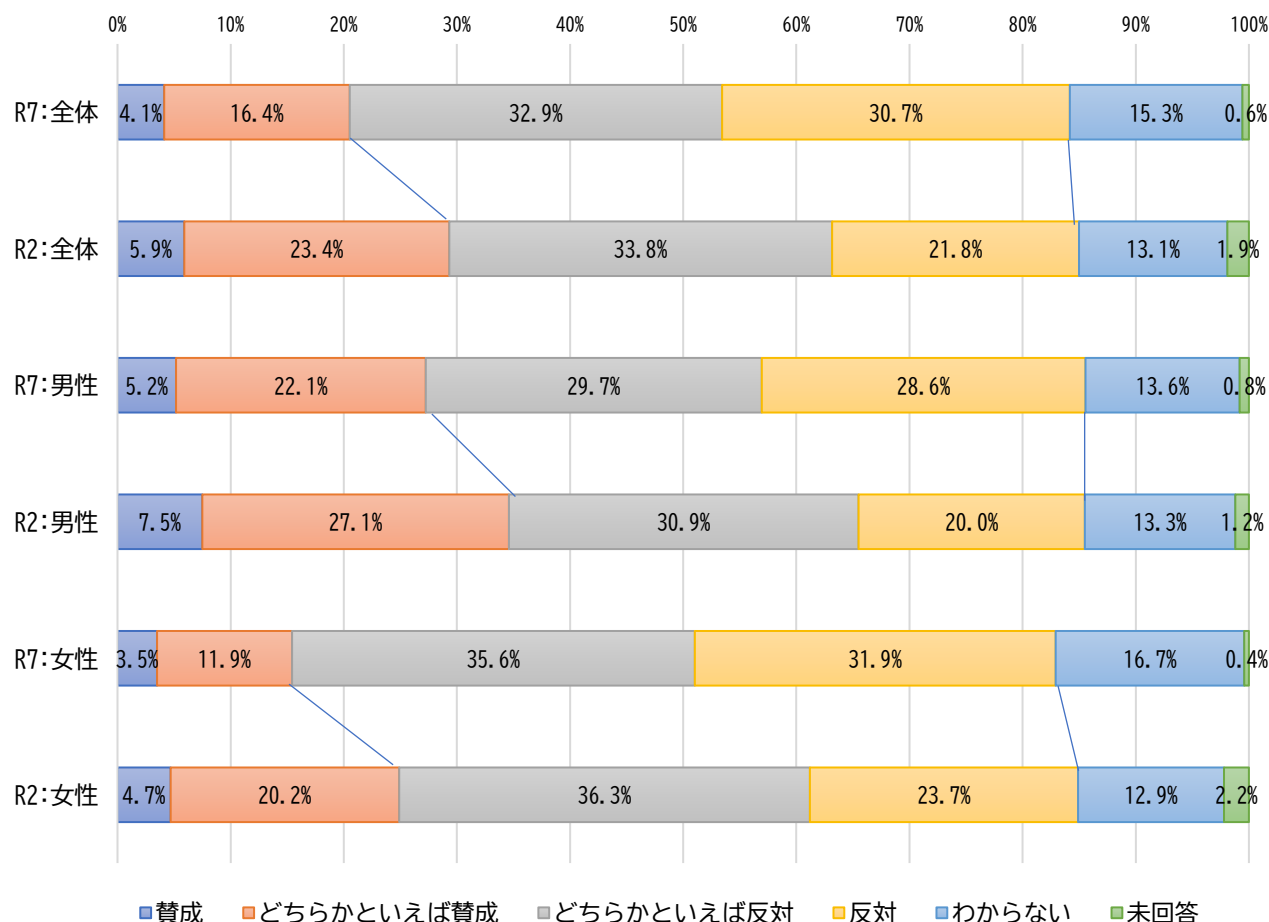
### 1 男女平等に関する意識について

問1 「男性は仕事、女性は家庭」という考えについて、あなたはどのように思いますか。【単数回答】

	(人)		
	全体	男性	女性
賛成	36	19	17
どちらかといえば賛成	143	81	58
どちらかといえば反対	287	109	173
反対	268	105	155
わからない	133	50	81
未回答	5	3	2
	872	367	486

【全国調査 (R6)】  
 賛成・どちらかといえば賛成 男37.5% 女29.3%  
 反対・どちらかといえば反対 男59.7% 女69.2%  
 「男女共同参画社会に関する世論調査」(内閣府)

「男性は仕事、女性は家庭」という考えについて



「男性は仕事、女性は家庭」とする考えについて、本市では「反対」「どちらかといえば反対」が男性58.3%、女性67.5%と過半数を占め、前回(R2)調査より増加している。一方、「賛成」「どちらかといえば賛成」は減少しており、全国調査(R6)と同様の変動が見られることから、性別役割分担意識に一定の変化が見られる。

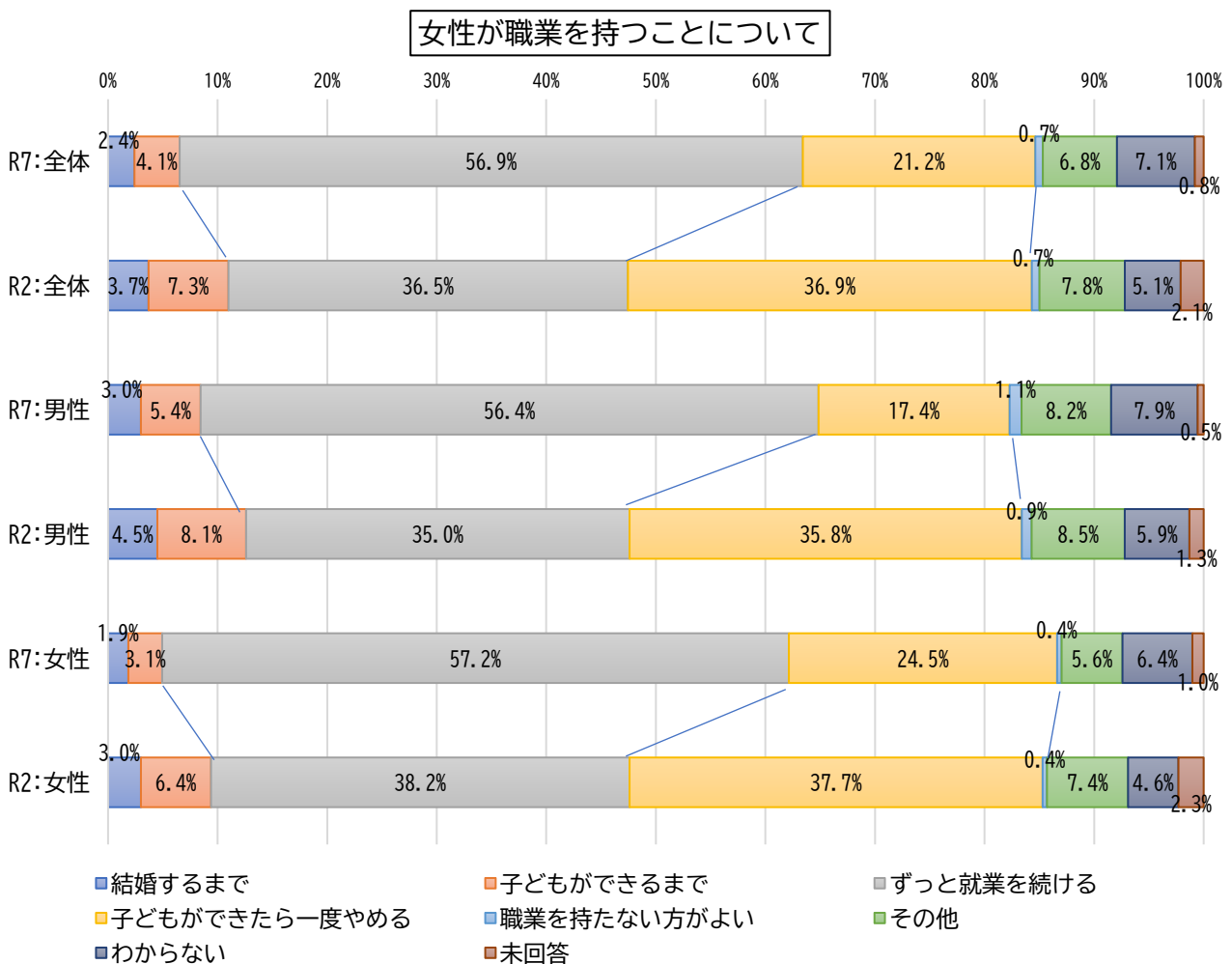
意識の変化には、教育や啓発による理念的要因のほか、共働き世帯の増加や経済状況、子育て・介護、アフターコロナの働き方の変化など、生活上の事情も影響している可能性がある。

さらに、「わからない」は全体で1割以上を占め、前回(R2)調査と概ね同程度で推移しており、意見が定まっていない層が一定数存在することがうかがえる。

問2 あなた個人として、女性が職業を持つことについてどうお考えですか。【単数回答】

(人)

	全体	男性	女性
結婚するまでは職業を持つ方がよい	21	11	9
子どもができるまでは、職業を持つ方がよい	36	20	15
子どもができて、産休・育休を活用しながらずっと職業を続ける方がよい	496	207	278
子どもができたなら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい	185	64	119
女性は職業を持たない方がよい	6	4	2
その他	59	30	27
わからない	62	29	31
未回答	7	2	5
	872	367	486



前回(R2)調査と比較すると、「ずっと就業を続ける」とする割合は全体で36.5%から56.9%へ大きく上昇しており、男女とも継続就業を支持する意識が強まっていることが示されている。

一方で、「子どもができたなら一度やめる」は全体で36.9%から21.2%へ減少したものの、R7では女性が24.5%、男性17.4%と女性の方が高く、出産・育児期に働き方を調整したいという意識がうかがえる。

就業に対する意識は、「やめるか否か」から「どう続けるか」へと変化していると読み取れるが、この結果には、経済状況や職場環境など、個々の意識とは別の要因が影響している可能性もあり、現実的な要素も考慮する必要がある。

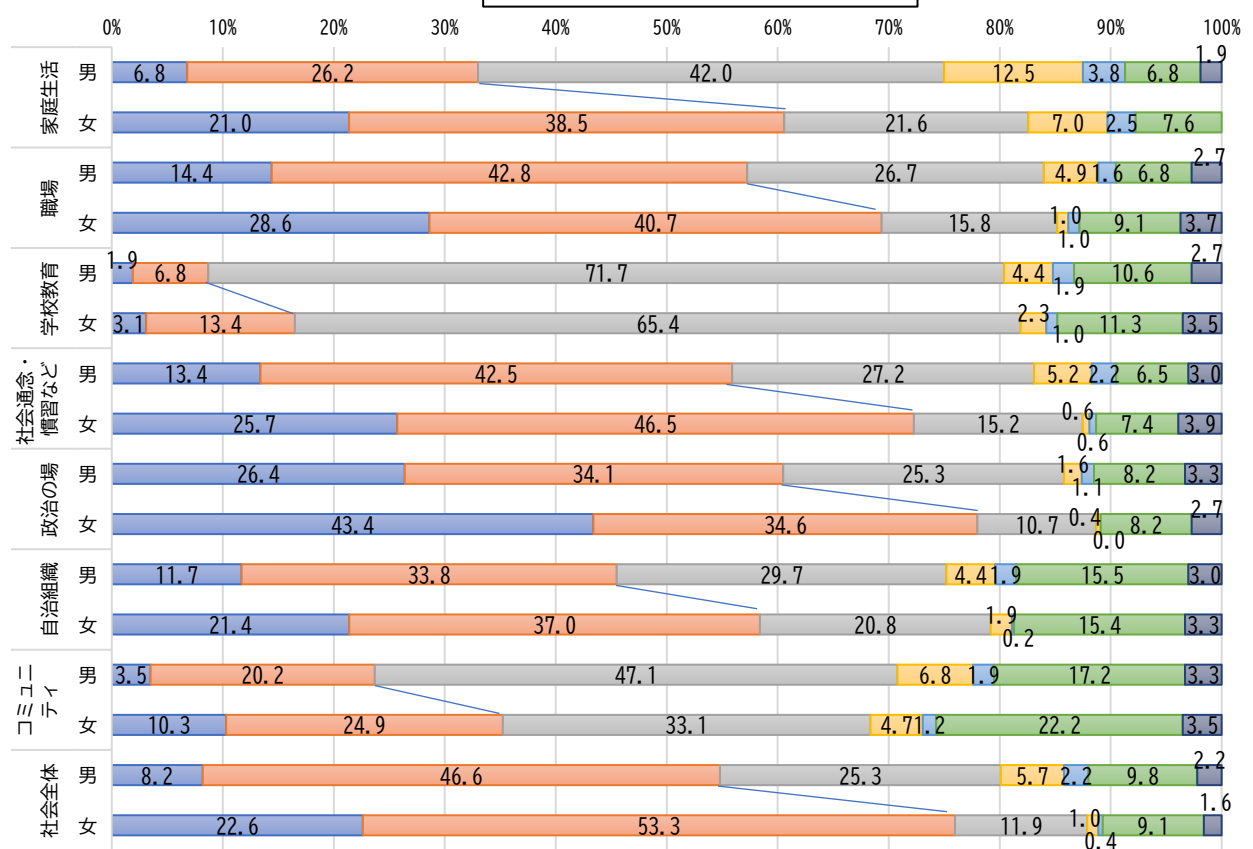
「その他」の意見では、結婚や子どもの有無にかかわらず、本人や家庭環境に応じた柔軟な働き方を選択すべきとの声が多く、男女で分けて考えることへの違和感や、多様な生き方を尊重する社会を求める意識も示されている。

問3 次の分野で、男女の地位は平等だと思いますか。【それぞれ単数回答】

(人)

		男性優遇	どちらかといえば男性優遇	平等	どちらかといえば女性優遇	女性優遇	わからない	未回答
家庭生活	男	25	96	154	46	14	25	7
	女	102	187	105	34	12	37	9
職場	男	53	157	98	18	6	25	10
	女	139	198	77	5	5	44	18
学校教育	男	7	25	263	16	7	39	10
	女	15	65	318	11	5	55	17
社会通念・慣習・しきたりなど	男	49	156	100	19	8	24	11
	女	125	226	74	3	3	36	19
政治の場	男	97	125	93	6	4	30	12
	女	211	168	52	2	0	40	13
町内会・自治会等の自治組織	男	43	124	109	16	7	57	11
	女	104	180	101	9	1	75	16
コミュニティ	男	13	74	173	25	7	63	12
	女	50	121	161	23	6	108	17
社会全体	男	30	171	93	21	8	36	8
	女	110	259	58	5	2	44	8

男女の地位の平等に関する意識



■男性優遇 ■どちらかといえば男性優遇 ■平等 ■どちらかといえば女性優遇 ■女性優遇 ■わからない ■未回答

【全国調査 (R6)】「男女共同参画社会に関する世論調査」 (内閣府)		男性(n=367)	女性(n=486)
社会全体	・男性優遇・どちらかといえば男性優遇	男性 64.7%	女性 83.4%
	・平等	男性 21.9%	女性 12.2%
	・女性優遇・どちらかといえば女性優遇	男性 11.2%	女性 3.1%

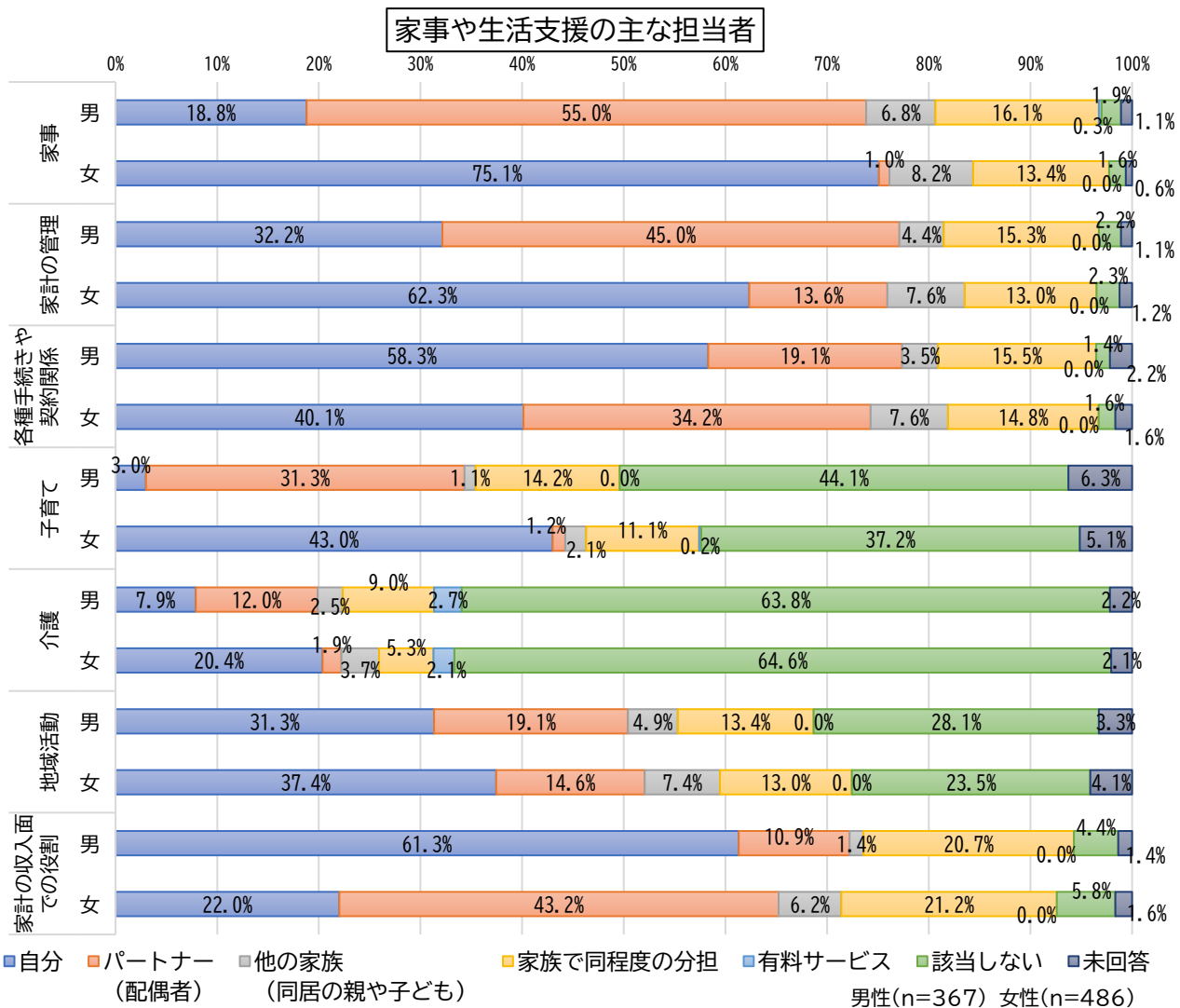
「学校教育」では7割前後が「平等」と回答している。一方、「職場」や「社会通念・慣習・しきたり」、「政治の場」では、男女とも男性優遇と感じる割合が高い。さらに、「家庭生活」や「社会全体」では女性の方が男性優遇を強く感じており、男女間に約20ポイントの差が見られる。このことから、男女が置かれている立場や状況の違いが、意識の差として表れていることがうかがえる。

## 2 家庭生活・地域活動について

問4 次の家事や生活支援のうち、誰が主に担当していますか。【それぞれ単数回答】

(人)

		自分	パートナー (配偶者)	他の家族(同居 の親や子ども)	家族で同程度 の分担	有料サー ビス	該当しない	未回答
家事(食事の準備、洗濯など)	男	69	202	25	59	1	7	4
	女	365	5	40	65	0	8	3
家計の管理	男	118	165	16	56	0	8	4
	女	303	66	37	63	0	11	6
各種手続きや契約関係	男	214	70	13	57	0	5	8
	女	195	166	37	72	0	8	8
子育て(育児・送迎など)	男	11	115	4	52	0	162	23
	女	209	6	10	54	1	181	25
介護	男	29	44	9	33	10	234	8
	女	99	9	18	26	10	314	10
地域活動(町内会・PTAなど)	男	115	70	18	49	0	103	12
	女	182	71	36	63	0	114	20
家計の収入面での役割	男	225	40	5	76	0	16	5
	女	107	210	30	103	0	28	8



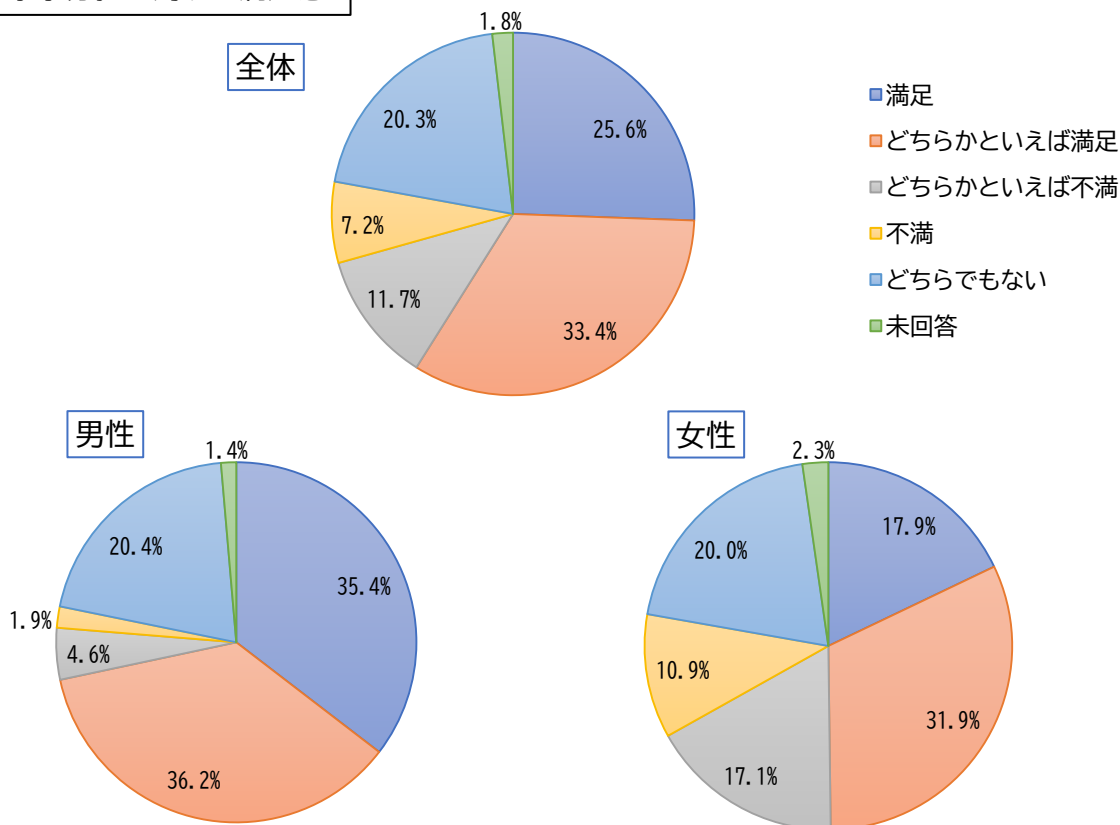
家事や子育ての主な担当について、「自分」と回答した割合は女性で高く、日常的な家事・ケア労働は女性が中心であることが示されている。一方、手続き・契約や家計の収入では男性の割合が高く、分野ごとの役割分担の傾向がうかがえる。なお、40歳未満では、家事を「家族で同程度に分担」とする女性が約4人に1人を占めており(P15【参考】)、若い世代では分担意識に変化の動きも見られる。

問4-1 問4の家事分担について、どの程度満足していますか。【単数回答】

(人) 【参考】

	全体	男性	女性	男性 (40歳未満)	女性 (40歳未満)
満足	223	130	87	16	13
どちらかといえば満足	291	133	155	4	18
どちらかといえば不満	102	17	83	4	6
不満	63	7	53	1	4
どちらでもない	177	75	97	13	14
未回答	16	5	11	0	0
	872	367	486	38	55

家事分担に対する満足感

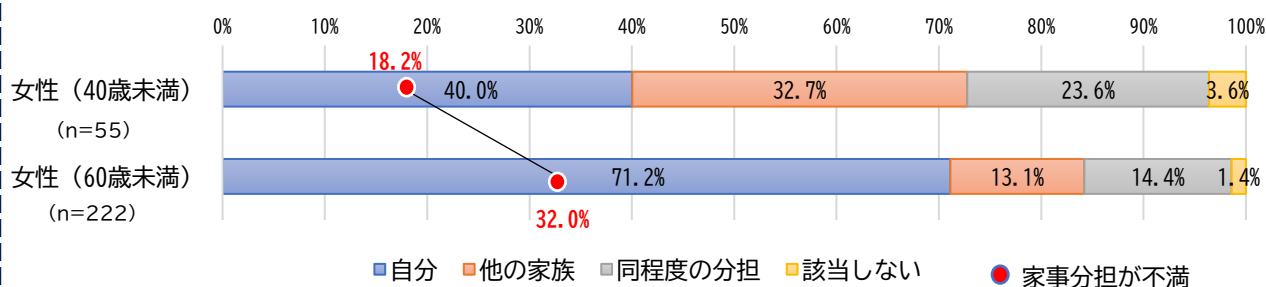


男性は満足(「満足」「どちらかといえば満足」の合計)が7割強を占め、不満(「不満」「どちらかといえば不満」の合計)は1割未満となっている。一方、女性では満足が約5割、不満は約3割と、男女で感じ方に差が見られる。不満の理由は、男性は仕事の忙しさなどで家事・育児に十分関われないことが中心であるのに対し、女性は家事・育児が女性任せになっていることや、協力が受け身である点が多い。理由からは、分担の実態だけでなく、期待とのずれや納得感も満足度に関係していることが示唆される。

なお、40歳未満の女性では不満の割合が相対的に低く、分担状況や関わり方の傾向が満足度に影響している可能性がうかがえる(※サンプル数が少ないため参考値)。

【参考】

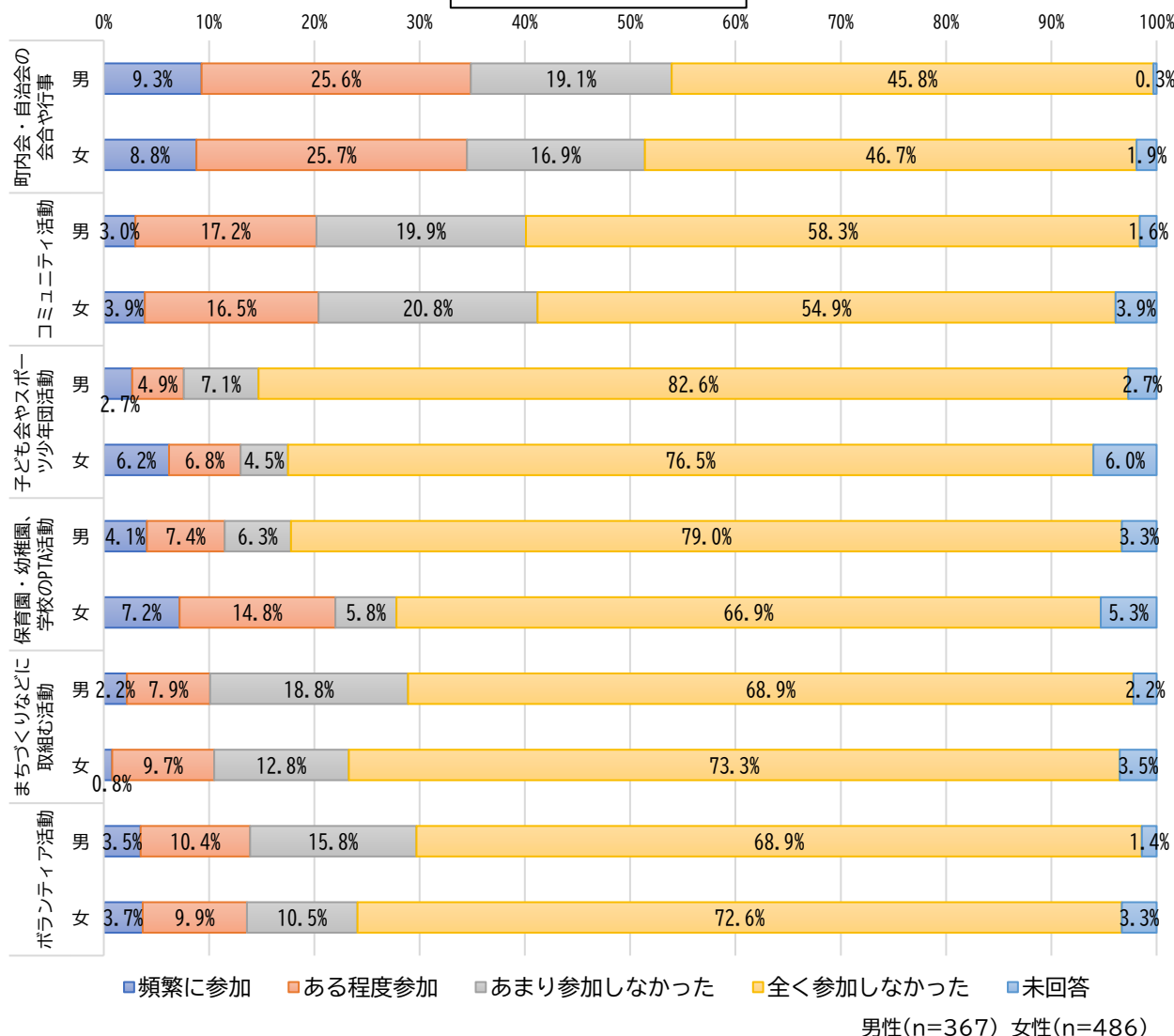
家事(食事の準備・洗濯など)の主な担当者



問5 この3年間で、次の地域活動にどの程度参加しましたか。【それぞれ単数回答】

		頻繁に参加	ある程度参加	あまり参加しなかった	全く参加しなかった	未回答
町内会・自治会の会合や行事	男	34	94	70	168	1
	女	43	125	82	227	9
コミュニティ活動	男	11	63	73	214	6
	女	19	80	101	267	19
子ども会やスポーツ少年団活動	男	10	18	26	303	10
	女	30	33	22	372	29
保育園・幼稚園、学校のPTA活動	男	15	27	23	290	12
	女	35	72	28	325	26
まちづくりなどに取り組む活動	男	8	29	69	253	8
	女	4	47	62	356	17
ボランティア活動	男	13	38	58	253	5
	女	18	48	51	353	16

地域活動への参加状況

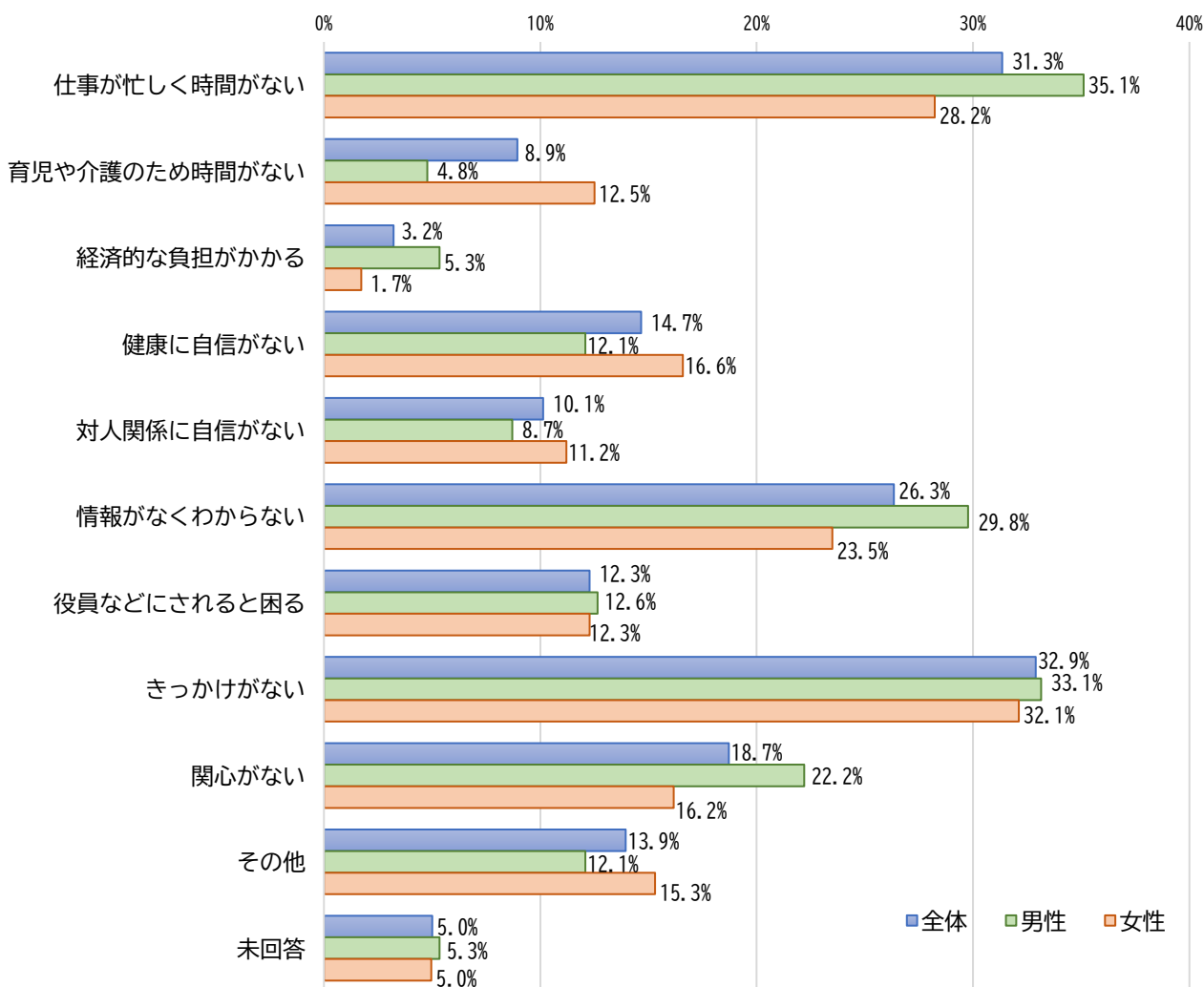


地域活動への参加状況を見ると、子ども会・PTA活動などでは「全く参加しなかった」が7～8割前後を占めるが、回答者の年齢構成を踏まえると、対象年齢の子どもがいない世帯など、一定の非該当者が含まれていることが想定される。一方、自治会・町内会やコミュニティ活動では「頻繁に参加」「ある程度参加」を合わせて3割前後が関わっており、地域活動を担う層が一定数存在していることがうかがえる。ただし、全体としては不参加が多数を占めており、参加層は限られている状況にある。

問5-1 【問5 で「全く参加しなかった」または「あまり参加しなかった」を選んだ方へ】  
参加しなかった理由を教えてください。【複数回答】

	(人)		(人)		(人)	
	全体		男性		女性	
仕事が忙しく時間がない	263	31.3%	125	35.1%	131	28.2%
育児や介護のため時間がない	75	8.9%	17	4.8%	58	12.5%
経済的な負担がかかる	27	3.2%	19	5.3%	8	1.7%
健康に自信がない	123	14.7%	43	12.1%	77	16.6%
対人関係に自信がない	85	10.1%	31	8.7%	52	11.2%
情報がなくわからない	221	26.3%	106	29.8%	109	23.5%
役員などにされると困る	103	12.3%	45	12.6%	57	12.3%
きっかけがない	276	32.9%	118	33.1%	149	32.1%
関心がない	157	18.7%	79	22.2%	75	16.2%
その他	117	13.9%	43	12.1%	71	15.3%
未回答	42	5.0%	19	5.3%	23	5.0%
母数	839		356		464	

地域活動に参加しなかった理由



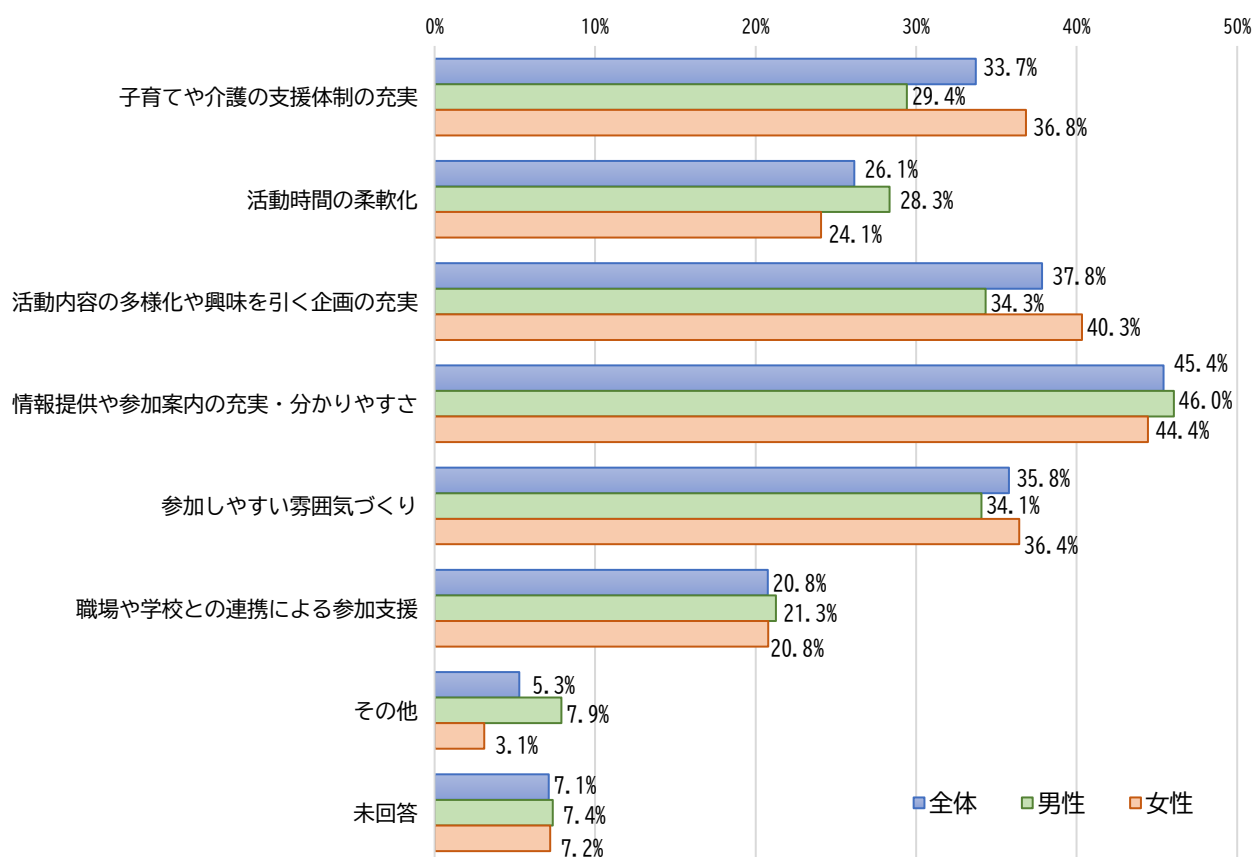
地域活動に参加しなかった理由としては、男女とも「時間がない」「きっかけがない」「情報がない」が上位を占めている。ほか、男性では「関心がない」とする割合が比較的高く、女性では育児・介護や健康面への不安を挙げる傾向が見られる。

その他としては、高齢や病気など個人的事情に加え、町内会・自治会の解散や活動の縮小など、参加機会そのものの減少を指摘する声もあり、個人要因と環境要因の双方が影響している状況がうかがえる。

問6 地域活動に、より多様な人々(男性・女性・若者・学生・働いている人など)が参加しやすくなるために、必要だと思うことを教えてください。【複数回答】

	(人)		(人)		(人)	
	全体		男性		女性	
子育てや介護の支援体制の充実	294	33.7%	108	29.4%	179	36.8%
活動時間の柔軟化(夜間や休日、オンライン参加など)	228	26.1%	104	28.3%	117	24.1%
活動内容の多様化や興味を引く企画の充実	330	37.8%	126	34.3%	196	40.3%
情報提供や参加案内の充実・分かりやすさ	396	45.4%	169	46.0%	216	44.4%
参加しやすい雰囲気づくり(歓迎ムードや意見が言いやすい環境、リーダー育成など)	312	35.8%	125	34.1%	177	36.4%
職場や学校との連携による参加支援(勤務時間内参加OK など)	181	20.8%	78	21.3%	101	20.8%
その他	46	5.3%	29	7.9%	15	3.1%
未回答	62	7.1%	27	7.4%	35	7.2%
母数	872		367		486	

地域活動に多様な人が参加するための方策

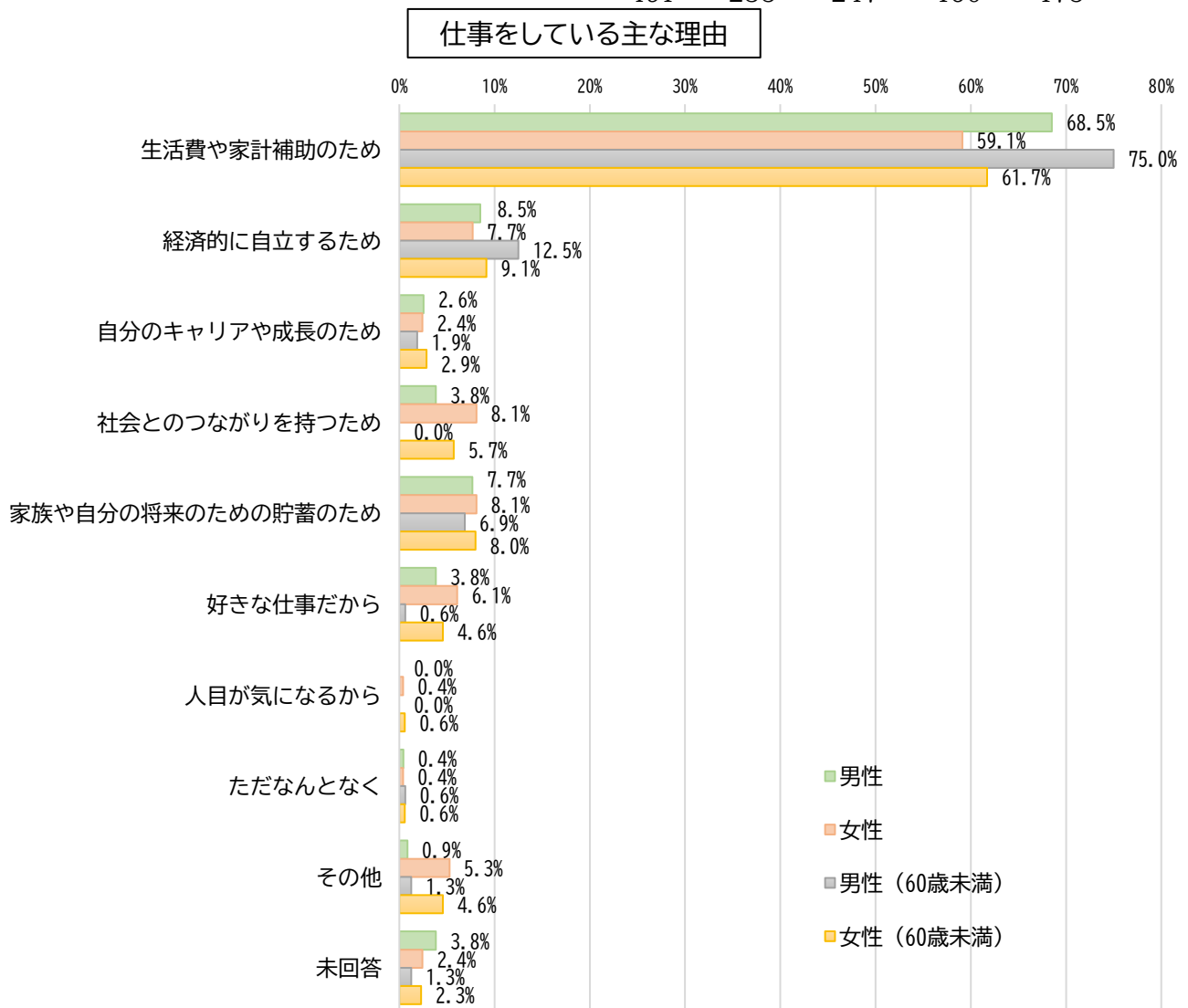


多様な人が地域活動に参加しやすくなるための方策については、男女とも傾向はおおむね共通しており、大きな差は見られない。特に、情報提供の充実や参加しやすい雰囲気づくり、活動内容の工夫などが重視されていることが回答から読み取れる。また、子育てや介護への配慮、時間的負担の軽減を求める声も一定数見られた。  
全体として、参加しやすい環境を整えるためには、きっかけづくりと無理なく関われる仕組みづくりが求められている状況がうかがえる。

### 3 仕事・職業について

問7 【F3「職業」で(正規雇用～自営業)と回答した人へ】 仕事をしている主な理由は何ですか。【単数回答】

	(人)				【参考】	
	全体	男性	女性	男性 (60歳未満)	女性 (60歳未満)	
生活費や家計補助のため	312	161	146	120	108	
経済的に自立するため	40	20	19	20	16	
自分のキャリアや成長のため	13	6	6	3	5	
社会とのつながりを持つため	29	9	20	0	10	
家族や自分の将来のための貯蓄のため	39	18	20	11	14	
好きな仕事だから	24	9	15	1	8	
人目が気になるから	1	0	1	0	1	
ただなんとなく	3	1	1	1	1	
その他	15	2	13	2	8	
未回答	15	9	6	2	4	
	491	235	247	160	175	



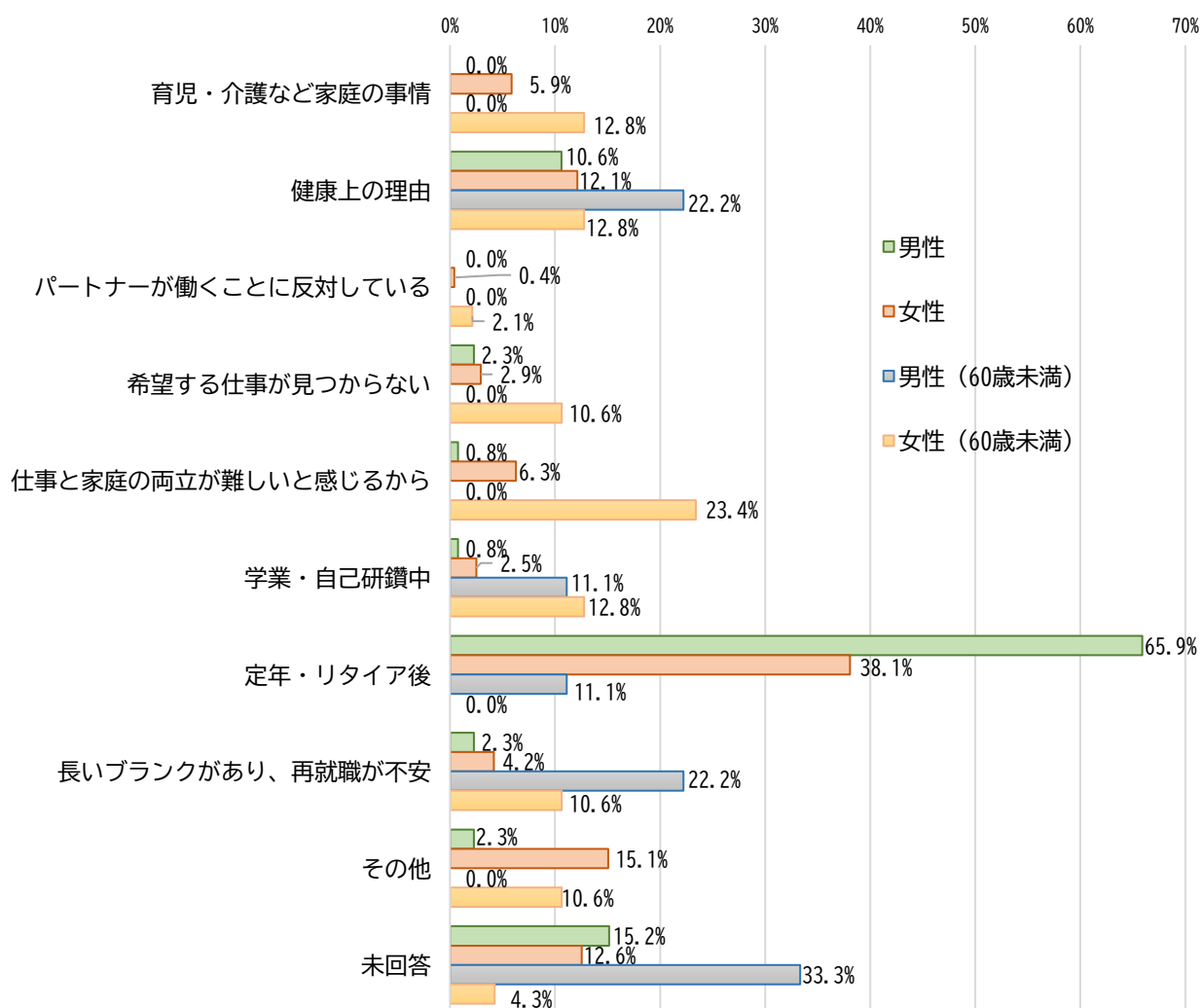
仕事をしている理由を見ると、男女とも「生活費や家計補助のため」が最多であり、「経済的に自立するため」を含め、就労の主な目的は経済的理由にあることがうかがえる。その傾向は60歳未満で相対的に強く見られる。

一方、女性では「社会とのつながりを持つため」「好きな仕事だから」といった回答も一定数見られ、就労動機が経済面にとどまらない多様な側面を有している傾向がうかがえる。

問8 【F3「職業」で(専業主婦～無職)と回答した人へ】 現在仕事をしていない主な理由は何ですか。  
【単数回答】

	(人) 【参考】				
	全体	男性	女性	男性 (60歳未満)	女性 (60歳未満)
育児・介護など家庭の事情	14	0	14	0	6
健康上の理由	43	14	29	2	6
パートナーが働くことに反対している	1	0	1	0	1
希望する仕事が見つからない	11	3	7	0	5
仕事と家庭の両立が難しいと感じるから	16	1	15	0	11
学業・自己研鑽中	7	1	6	1	6
定年・リタイア後	178	87	91	1	0
長いブランクがあり、再就職が不安	13	3	10	2	5
その他	39	3	36	0	5
未回答	50	20	30	3	2
	372	132	239	9	47

現在仕事をしていない主な理由

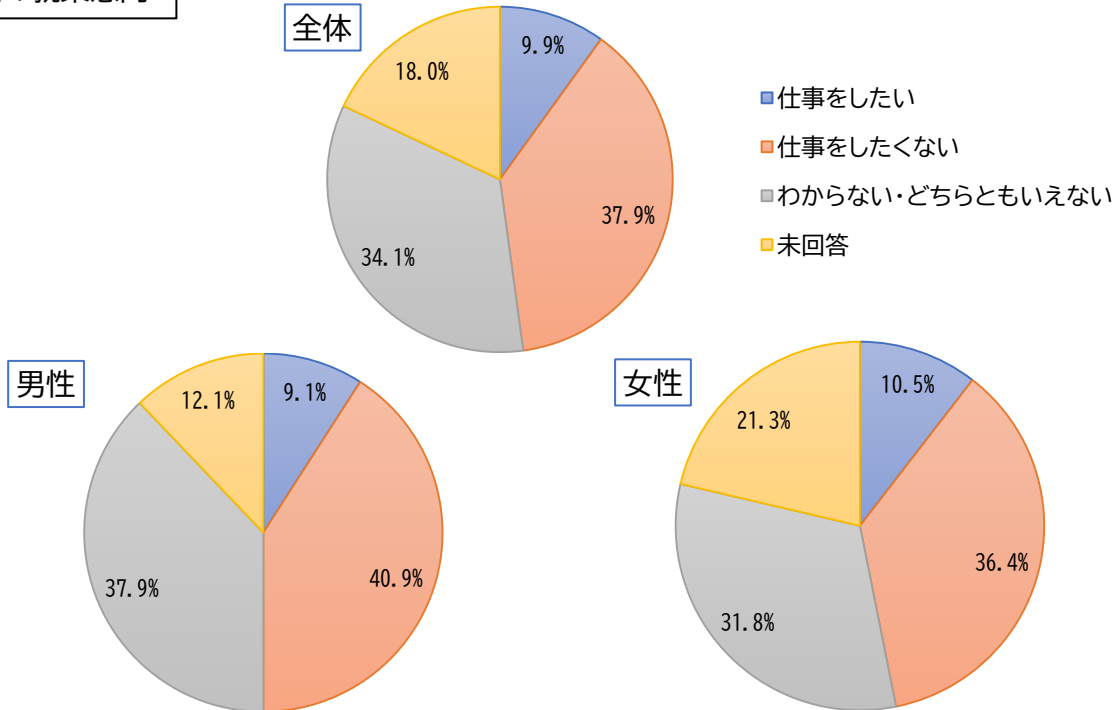


現在仕事をしていない主な理由を見ると、男性では「定年・リタイア後」が最多であり、就業を終えた人が多いことが確認できる。一方、女性でも「定年・リタイア後」が最多であるものの、理由は比較的分散しており、「育児・介護など家庭の事情」や「仕事と家庭の両立が難しい」などを挙げる回答は男性より高い割合となっている。「その他」として家庭を優先した生活を理由とする回答も女性に多く見られる。60歳未満では「再就職への不安」や「健康上の理由」も挙げられており、仕事をしていない背景には、年齢や性別、ライフステージの違いが反映されていることが読み取れる。

問8-1 【F3「職業」で(専業主婦～無職)と回答した人へ】 今後仕事をしたいと思えますか。【単数回答】

	(人)				
	全体	男性	女性	男性 (60歳未満)	女性 (60歳未満)
仕事をしたい	37	12	25	3	18
仕事をしたくない	141	54	87	2	2
わからない・どちらともいえない	127	50	76	3	24
未回答	67	16	51	1	3
	372	132	239	9	47

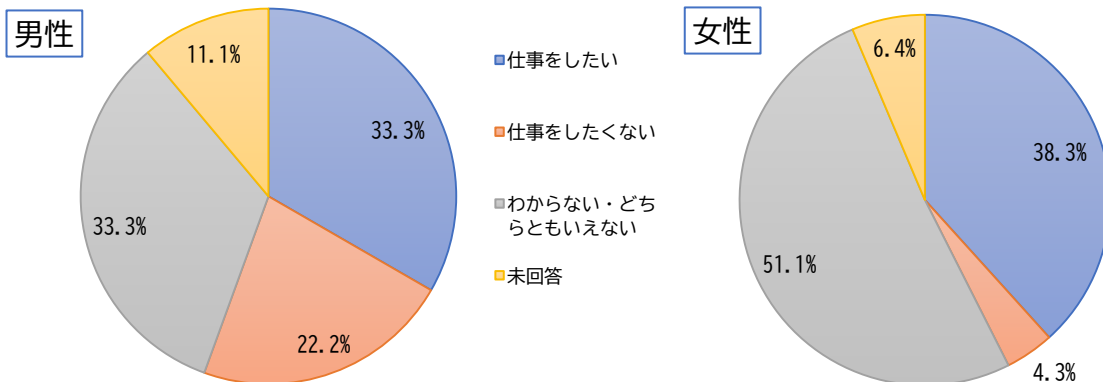
今後の就業意向



本結果は回答者の年齢構成の影響を受ける点に留意が必要であるが、現在働いていないと回答した人のうち、「仕事をしたくない」は約4割、「わからない・どちらともいえない」も同程度を占めており、全体として就業意向は低い傾向にあることがうかがえる。

【参考】

今後の就業意向 (60歳未満)



一方、60歳未満では男女とも3～4割ほどが「仕事をしたい」と回答しており、一定の就業意欲が確認できる。また、女性では「わからない・どちらともいえない」が5割を超えており、就業に関する判断については、条件や環境の整備が影響する層が一定程度存在すると考えられる。

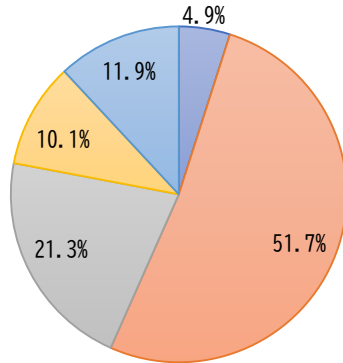
#### 4 ワーク・ライフ・バランスについて

問9 あなたが理想とする働き方に最も近いものを、次の中から1つ選んで○をつけてください。その後、該当する設問に進んでください。【単数回答】

	(人) 【参考】				
	全体	男性	女性	男性 (60歳未満)	女性 (60歳未満)
仕事中心にしっかり働きたい	43	29	13	14	10
仕事と生活(家庭・趣味など)のバランスを取りたい	451	197	241	114	148
生活(家庭・趣味など)を優先したい	186	74	109	32	49
理想がまだ明確に定まっていない、又は、該当しない	88	38	48	9	14
未回答	104	29	75	0	1
	872	367	486	169	222

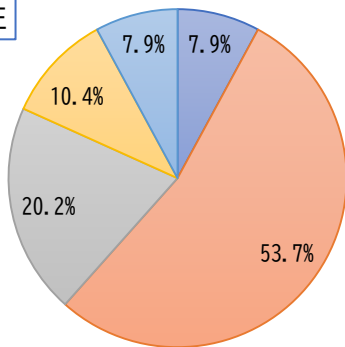
理想とする働き方

全体

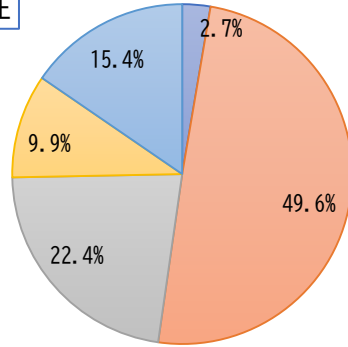


- 仕事中心にしっかり働きたい
- 仕事と生活(家庭・趣味など)のバランスを取りたい
- 生活(家庭・趣味など)を優先したい
- 理想がまだ明確に定まっていない、又は、該当しない
- 未回答

男性



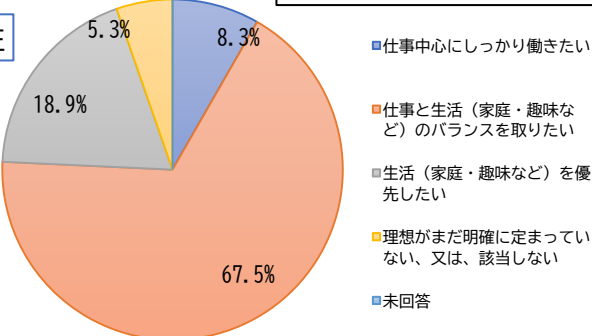
女性



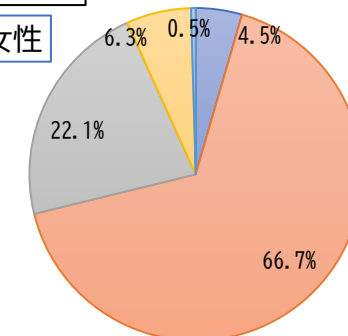
【参考】

理想とする働き方 (60歳未満)

男性



女性



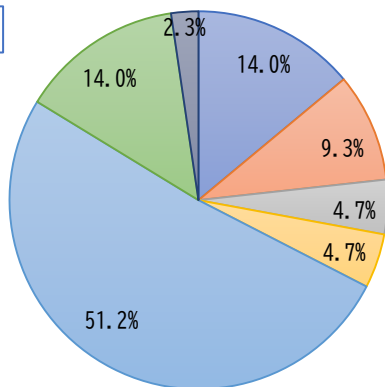
男女とも「仕事と生活のバランスを取りたい」と回答した人が最も多く、特に60歳未満では男女とも約7割を占めている。無理のない働き方を望む意識が主流となっているといえる。  
一方、「仕事中心」とする人は、60歳未満でも男性で1割弱、女性では5%程度にとどまり、性別を問わず仕事を優先する働き方は少数派である。安定した生活と両立できる働き方への志向が広く見られる。

問10① 「仕事中心」を選んだ人のギャップや課題【単数回答】

	(人)			【参考】	
	全体	男性	女性	男性 (60歳未満)	女性 (60歳未満)
家庭やプライベートの事情で、昇進や重要な業務の機会が限られている	6	3	3	1	2
長時間労働や残業が多く、自分の時間(資格取得などの勉強時間)を確保できない	4	3	1	2	1
テレワークやフレックスタイムなど柔軟な働き方が選びづらい	2	0	2	0	2
上司や職場の理解・支援が十分でない	2	1	1	1	1
特にギャップは感じていない	22	16	5	9	4
その他	6	6	0	1	0
未回答	1	0	1	0	0
	43	29	13	14	10

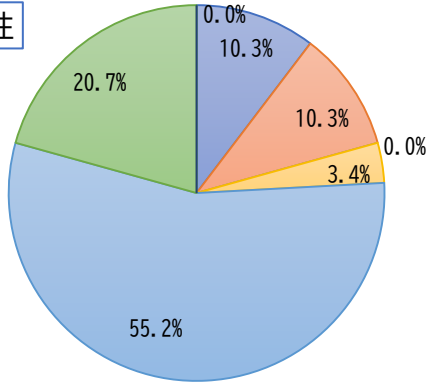
「仕事中心」を選んだ人のギャップや課題

全体

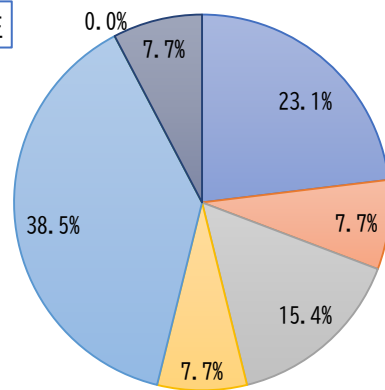


- 家庭やプライベートの事情で、昇進や重要な業務の機会が限られている
- 長時間労働や残業が多く、自分の時間(資格取得などの勉強時間)を確保できない
- テレワークやフレックスタイムなど柔軟な働き方が選びづらい
- 上司や職場の理解・支援が十分でない
- 特にギャップは感じていない
- その他
- 未回答

男性

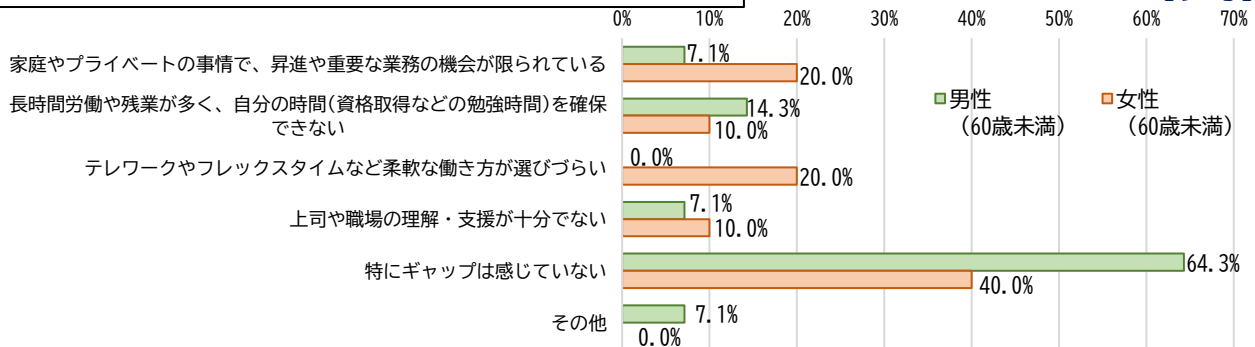


女性



「仕事中心」を選んだ人のギャップや課題 (60歳未満)

【参考】

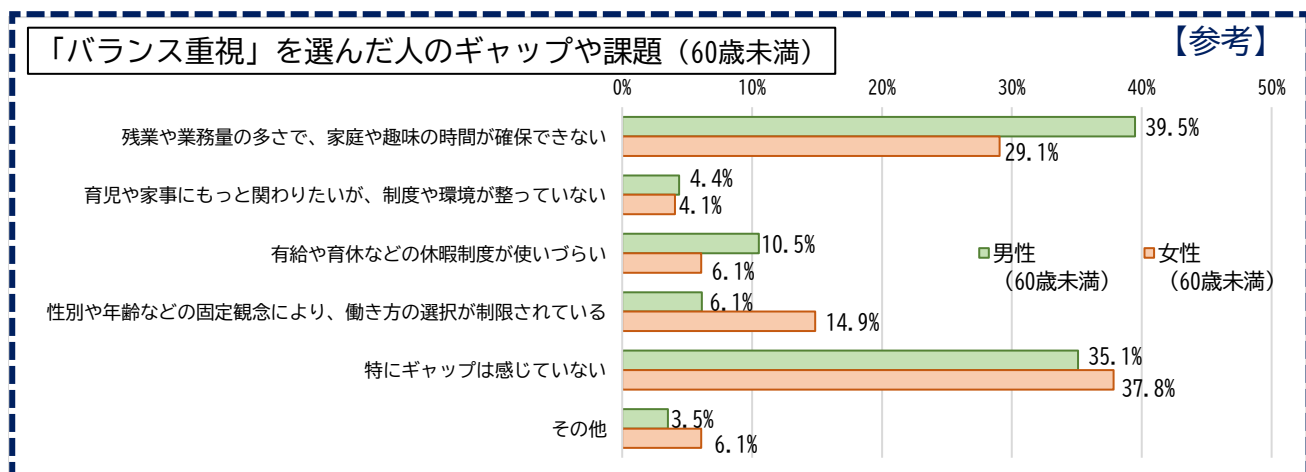
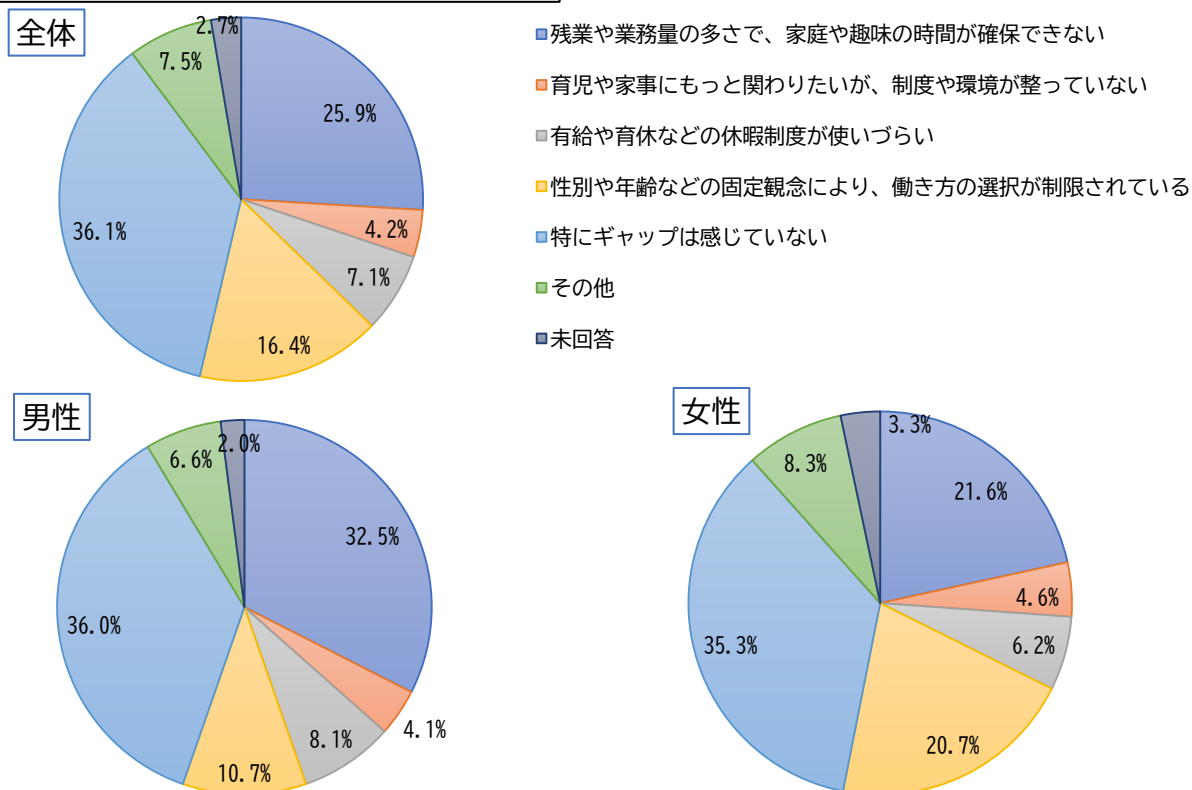


「家庭やプライベートの事情で、昇進や重要な業務の機会が限られている」との回答が一部に見られ、家庭との両立がキャリア形成に影響している状況がうかがえる。なお、回答数が少ないことから、本結果については参考として示すこととする。

問10② 「バランス重視」を選んだ人のギャップや課題【単数回答】

	(人)			【参考】	
	全体	男性	女性	男性 (60歳未満)	女性 (60歳未満)
残業や業務量の多さで、家庭や趣味の時間が確保できない	117	64	52	45	43
育児や家事にもっと関わりたいが、制度や環境が整っていない	19	8	11	5	6
有給や育休などの休暇制度が使いづらい	32	16	15	12	9
性別や年齢などの固定観念により、働き方の選択が制限されている	74	21	50	7	22
特にギャップは感じていない	163	71	85	40	56
その他	34	13	20	4	9
未回答	12	4	8	1	3

「バランス重視」を選んだ人のギャップや課題 451 197 241 114 148



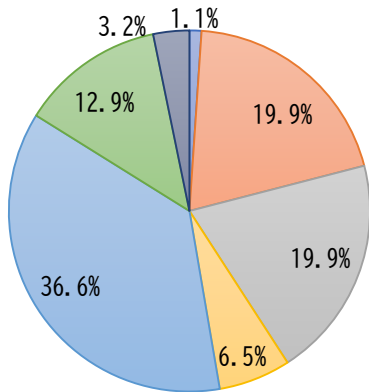
バランスを重視している人の中には、「残業や業務量の多さで、家庭や趣味の時間が確保できない」との回答が見られた。特に男性ではその割合が3割を超えている。理想としてバランスを求めているものの、時間確保に課題を感じている層が一定程度存在していることが読み取れる。

また、女性では「固定観念により、働き方の選択が制限されている」と感じている層が全体で2割程度見られ、働き方の選択に意識上の制約を感じる層が一定程度存在していることがうかがえる。

問10③ 「生活優先」を選んだ人のギャップや課題【単数回答】

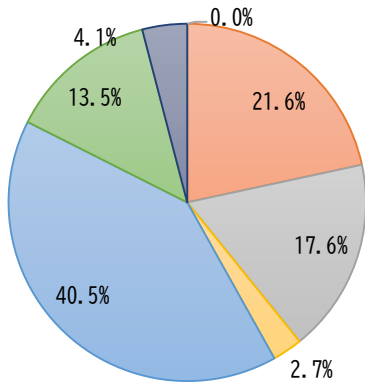
	(人)			【参考】	
	全体	男性	女性	男性 (60歳未満)	女性 (60歳未満)
キャリアアップやスキルを磨く機会が限られている	2	0	1	0	1
収入が不安定または将来に不安がある	37	16	21	8	11
柔軟な働き方(時短・在宅など)の選択肢が少ない	37	13	23	9	12
職場の理解が不十分で、家庭の事情による休暇が取りづらい	12	2	10	1	6
特にギャップは感じていない	68	30	37	9	14
その他	24	10	14	4	5
未回答	6	3	3	1	0
	186	74	109	32	49

全体

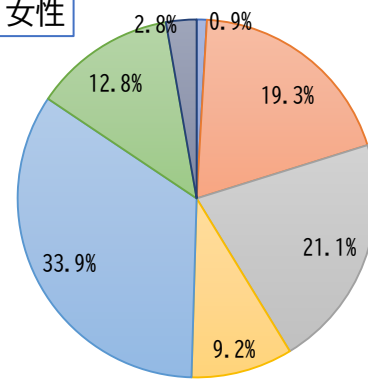


- キャリアアップやスキルを磨く機会が限られている
- 収入が不安定または将来に不安がある
- 柔軟な働き方(時短・在宅など)の選択肢が少ない
- 職場の理解が不十分で、家庭の事情による休暇が取りづらい
- 特にギャップは感じていない
- その他
- 未回答

男性

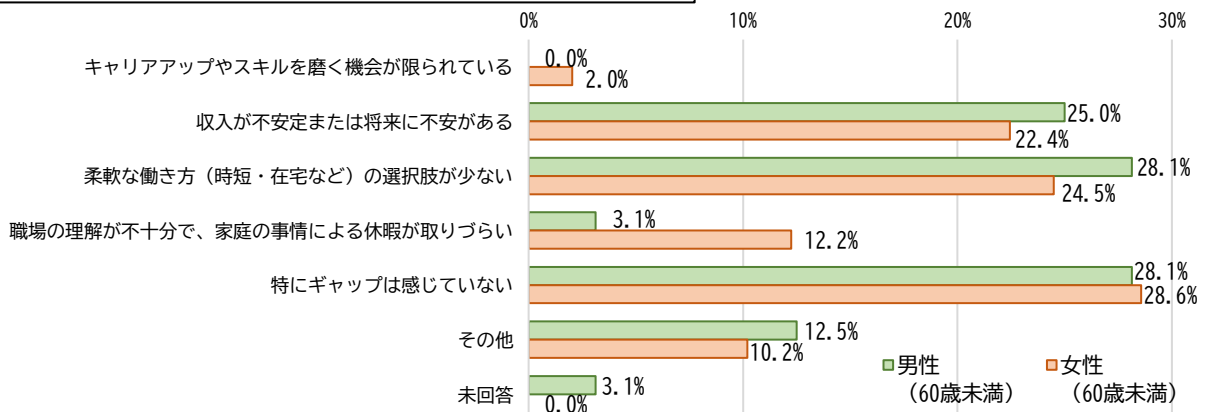


女性



「生活優先」を選んだ人のギャップや課題 (60歳未満)

【参考】

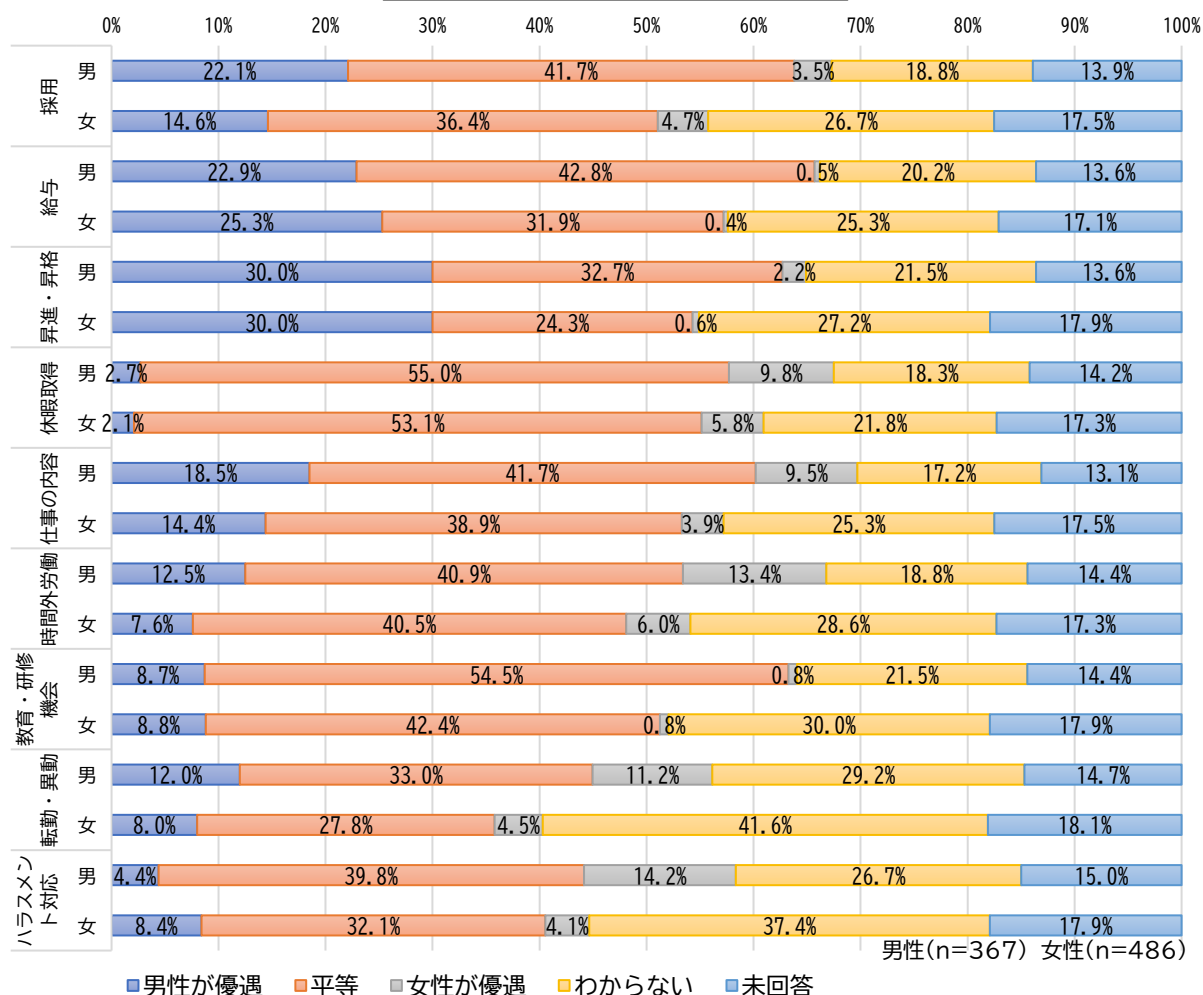


生活を優先した働き方を望む人では、「収入が不安定または将来に不安がある」といった回答のほか、時短勤務や在宅勤務など柔軟な働き方の活用に課題を感じる声も見られる。男女差は大きくなく、生活を優先する働き方においては、経済面や制度面に対する不安が一定程度うかがえる。

問11 あなたの職場で、以下の項目について、性別による待遇の差があると感じたことはありますか。【それぞれ単数回答】

		男性が優遇	平等	女性が優遇	わからない	未回答
採用	男	81	153	13	69	51
	女	71	177	23	130	85
給与	男	84	157	2	74	50
	女	123	155	2	123	83
昇進・昇格	男	110	120	8	79	50
	女	146	118	3	132	87
休暇取得	男	10	202	36	67	52
	女	10	258	28	106	84
仕事の内容	男	68	153	35	63	48
	女	70	189	19	123	85
時間外労働	男	46	150	49	69	53
	女	37	197	29	139	84
教育・研修機会	男	32	200	3	79	53
	女	43	206	4	146	87
転勤・異動	男	44	121	41	107	54
	女	39	135	22	202	88
ハラスメント対応	男	16	146	52	98	55
	女	41	156	20	182	87

職場で感じる性別による待遇の差



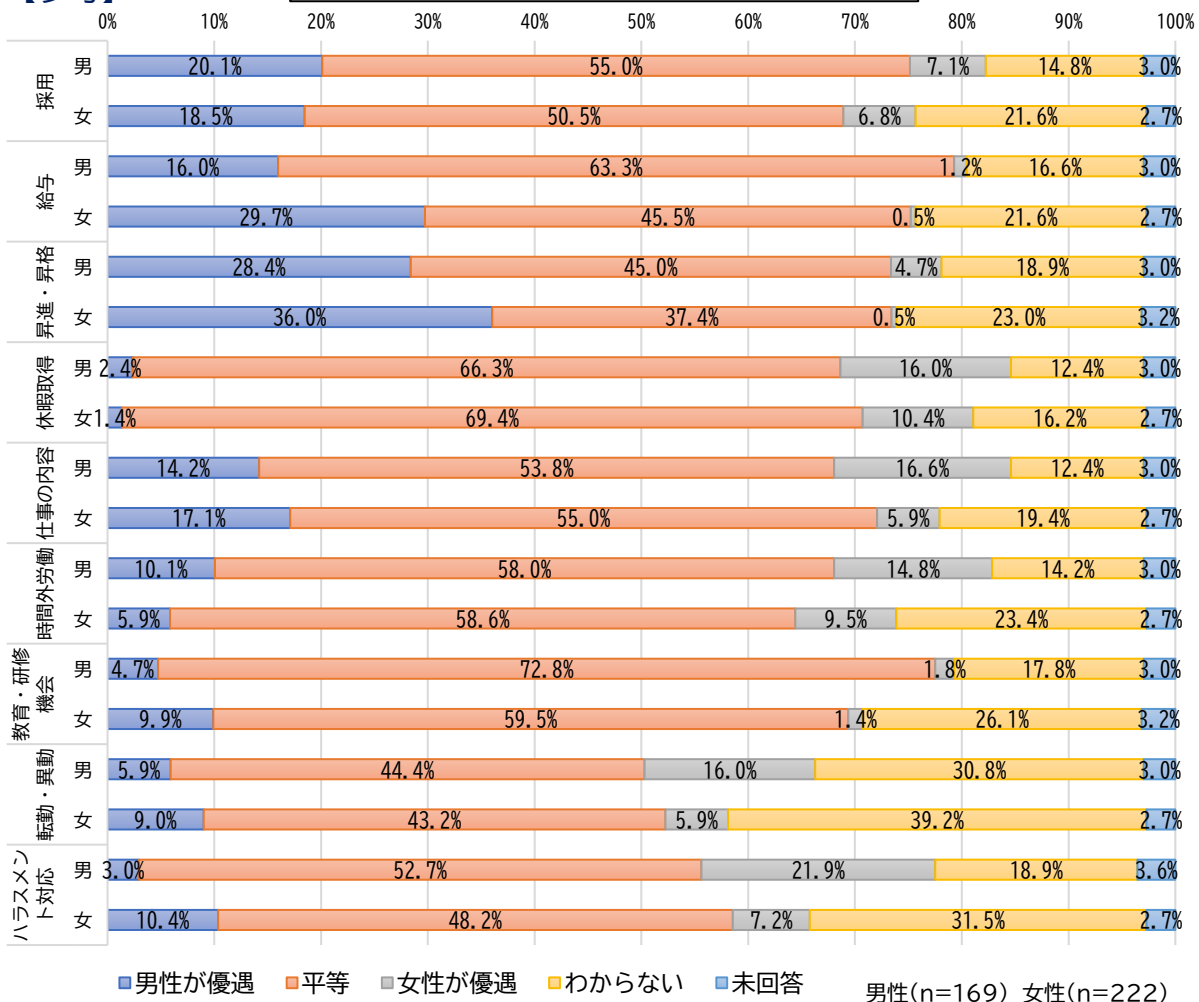
多くの項目で「平等」との回答が最も多い。一方、「昇進・昇格」や「給与」、「採用」では「男性が優遇」と感じる割合も一定程度見られ、特に「昇進・昇格」では男女とも約3割を占めている。

【参考】

60歳未満		男性が優遇	平等	女性が優遇	わからない	未回答
採用	男	34	93	12	25	5
	女	41	112	15	48	6
給与	男	27	107	2	28	5
	女	66	101	1	48	6
昇進・昇格	男	48	76	8	32	5
	女	80	83	1	51	7
休暇取得	男	4	112	27	21	5
	女	3	154	23	36	6
仕事の内容	男	24	91	28	21	5
	女	38	122	13	43	6
時間外労働	男	17	98	25	24	5
	女	13	130	21	52	6
教育・研修機会	男	8	123	3	30	5
	女	22	132	3	58	7
転勤・異動	男	10	75	27	52	5
	女	20	96	13	87	6
ハラスメント対応	男	5	89	37	32	6
	女	23	107	16	70	6

【参考】

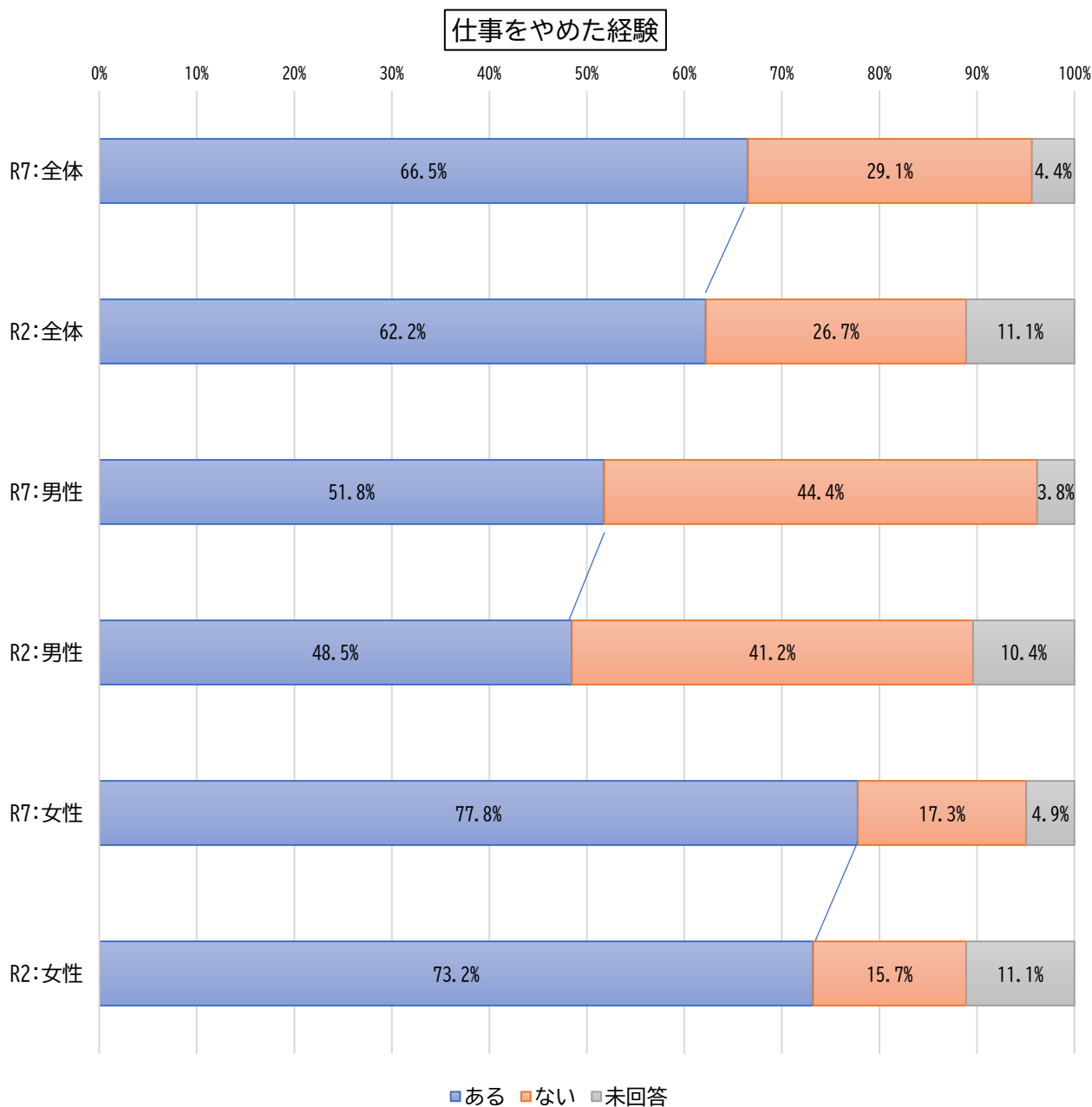
職場で感じる性別による待遇の差 (60歳未満)



60歳未満の結果においても、「平等」との回答が最も多く、全体と同様の傾向が見られる。さらに、「平等」とする回答の割合はすべての項目で全体より高く、相対的に平等感が高いことがうかがえる。一方で、「給与」や「昇進・昇格」では「男性が優遇」と感じる割合も一定程度見られ、特に女性ではその割合が男性より高く、全体の女性の結果と比べてもやや高い傾向が見られる。

問12 過去に仕事をやめた経験はありますか。【単数回答】

	(人)			【参考】	
	全体	男性	女性	男性 (60歳未満)	女性 (60歳未満)
ある	580	190	378	78	173
ない	254	163	84	90	47
未回答	38	14	24	1	2
	872	367	486	169	222



仕事をやめた経験については、男性の51.8%、女性の77.8%が「ある」と回答しており、女性で特に高い割合となっている。前回(R2)調査と比べると、男性は約3ポイント、女性は約4ポイント増加しているが、全体的な傾向に大きな変化はみられない。依然として女性の離職経験が多い状況が続いており、性別によって離職の背景が異なることがうかがえる。具体的な理由については、次の項目で検証する。

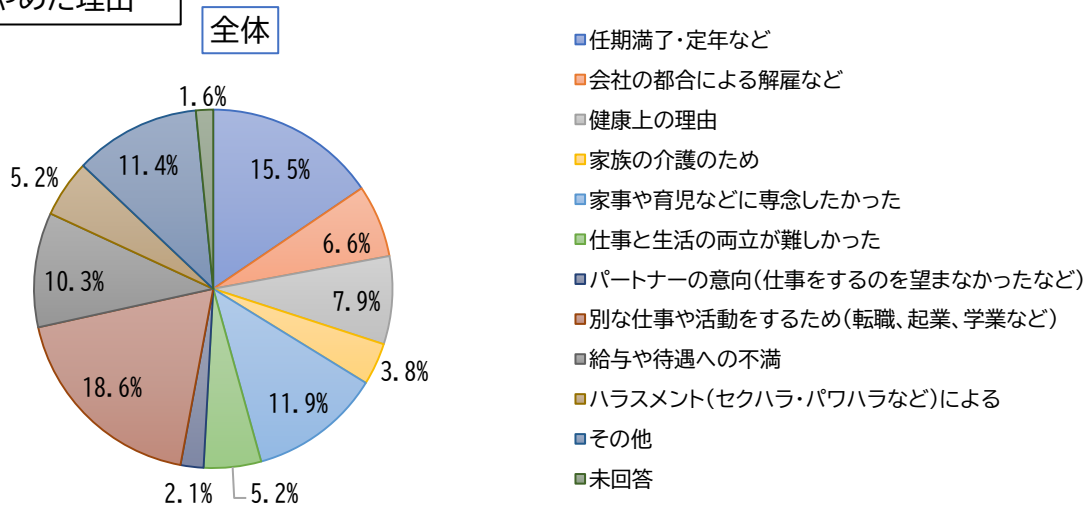
問12-1 【問12 で「ある」と答えた方へ】仕事をやめた主な理由を教えてください。【単数回答】

(人) 【参考】

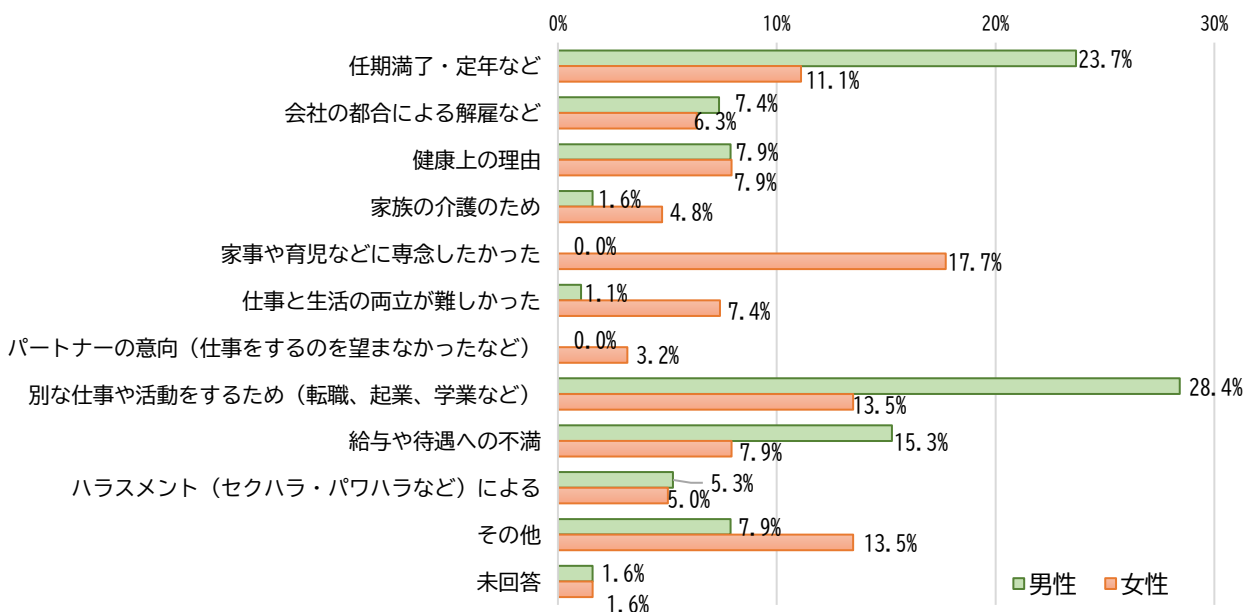
	全体	男性	女性	男性 (60歳未満)	女性 (60歳未満)
任期满了・定年など	90	45	42	3	3
会社の都合による解雇など	38	14	24	6	8
健康上の理由	46	15	30	4	13
家族の介護のため	22	3	18	1	7
家事や育児などに専念したかった	69	0	67	0	41
仕事と生活の両立が難しかった	30	2	28	2	15
パートナーの意向(仕事をするのを望まなかったなど)	12	0	12	0	4
別な仕事や活動をするため(転職、起業、学業など)	108	54	51	26	30
給与や待遇への不満	60	29	30	21	16
ハラスメント(セクハラ・パワハラなど)による	30	10	19	6	12
その他	66	15	51	7	23
未回答	9	3	6	2	1

仕事をやめた理由

580 190 378 78 173



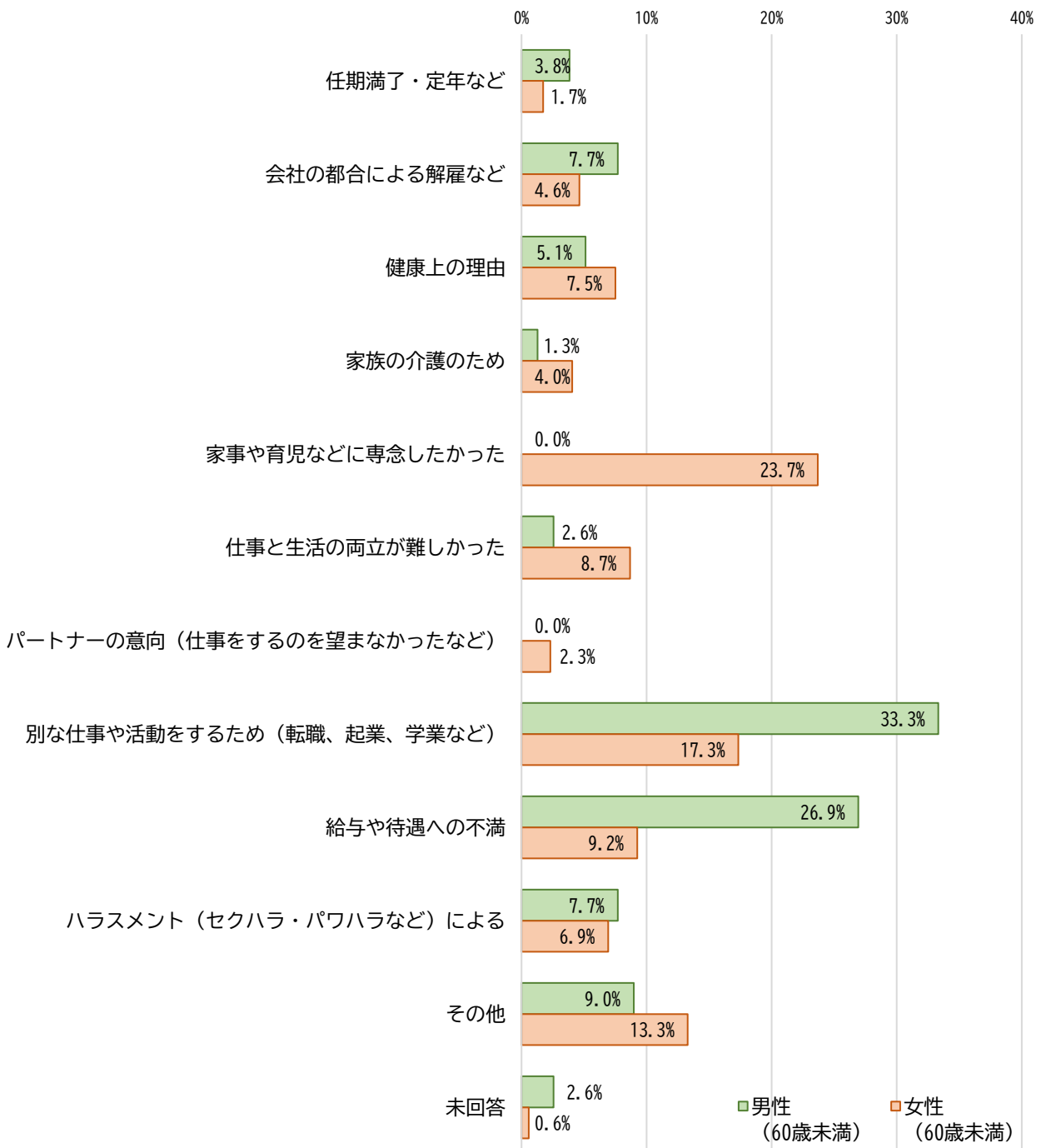
仕事をやめた理由



仕事をやめた理由は、男性では転職・起業など次の活動への移行や任期满了・定年が多い傾向にある。一方、女性では家事・育児への専念や仕事と生活の両立の難しさを挙げる回答が比較的多く、離職理由に男女で異なる傾向が見られる。

【参考】

仕事をやめた理由（60歳未満）



60歳未満では、男性は「別な仕事や活動をするため」が最も高く、次いで「給与や待遇への不満」が続いており、キャリア形成や就業条件の改善を背景とした離職の傾向が見られる。より良い条件や自己実現を求めた前向きな転職の側面がうかがえる。

一方、女性は「家事や育児に専念したかった」が最も高く、家庭内での役割を理由とする離職が目立つほか、「仕事と生活の両立が難しかった」や「家族の介護」も男性と比較して高い傾向が見られる。これらからは、就業環境の問題に加え、家庭責任の偏りが影響している可能性が考えられる。

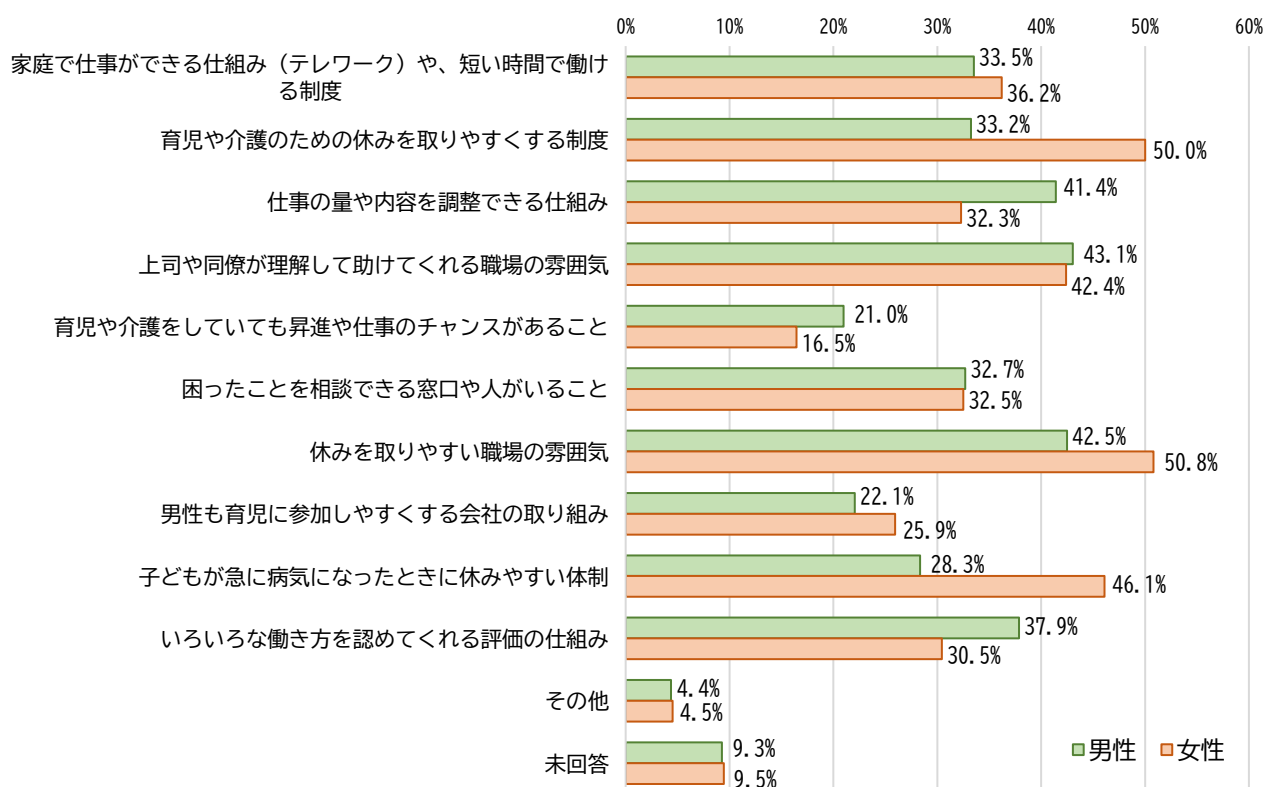
60歳以上を含む全体と比べると、任期满了や健康上の理由の割合は低く、年齢的な区切りよりも就業環境や生活上の事情が離職の主な要因となっている点に特徴が見られる。また、男女で理由の内容が異なっており、就労継続に影響する背景条件の違いもうかがえる。

問13 仕事と生活を両立しやすくするために、【会社や職場】にどのようなサポートがあったらよいと思いますか。【複数回答】

(人) 【参考】

	全体	男性	女性	【参考】	
				男性 (60歳未満)	女性 (60歳未満)
家庭で仕事ができる仕組み(テレワーク)や、短い時間で働ける制度	306	123	176	64	109
育児や介護のための休みを取りやすくする制度	373	122	243	62	120
仕事の量や内容を調整できる仕組み	315	152	157	87	97
上司や同僚が理解して助けてくれる職場の雰囲気	372	158	206	84	106
育児や介護をしても昇進や仕事のチャンスがあること	160	77	80	47	43
困ったことを相談できる窓口や人がいること	287	120	158	58	75
休みを取りやすい職場の雰囲気	413	156	247	97	137
男性も育児に参加しやすくする会社の取り組み	212	81	126	47	69
子どもが急に病気になったときに休みやすい体制	335	104	224	59	125
いろいろな働き方を認めてくれる評価の仕組み	298	139	148	74	84
その他	38	16	22	9	10
未回答	80	34	46	2	2
母数	872	367	486	169	222

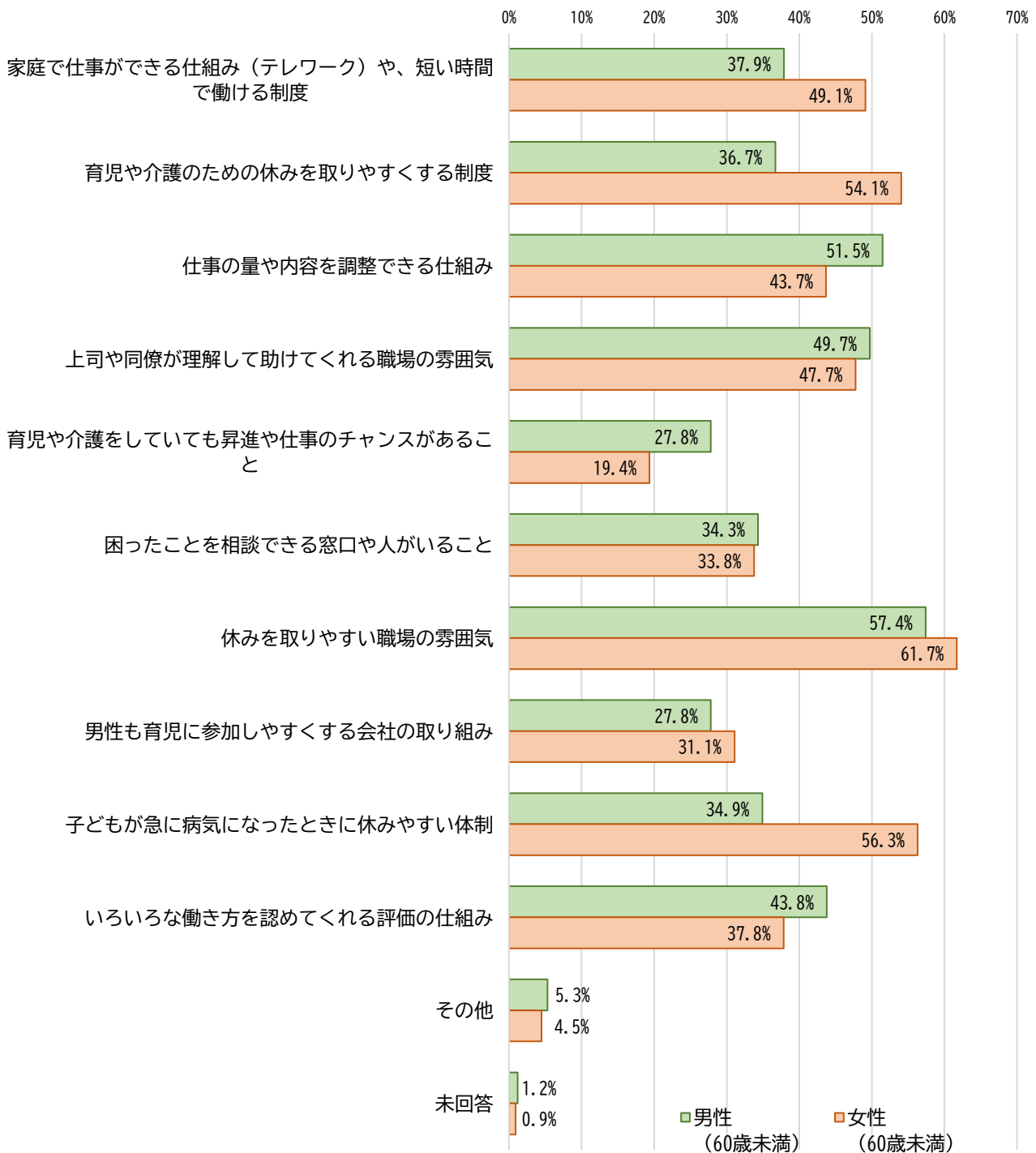
仕事と生活を両立しやすくする職場の支援



仕事と家庭の両立に必要な支援として、男女とも制度の充実も求められているものの、休みを取りやすい雰囲気や業務調整、上司や同僚の理解といった日常的な職場環境を重視する傾向がやや強く見られる。女性では育児・介護に直接対応する支援への期待が比較的高く、両立支援においては制度面と職場環境の双方への対応が求められていることがうかがえる。

【参考】

仕事と生活を両立しやすくする職場の支援（60歳未満）



60歳未満では、「休みを取りやすい職場の雰囲気」へのニーズが男女ともに最も高く、いずれも約6割と全体を上回っている。また、「仕事の量や内容を調整できる仕組み」や「上司や同僚の理解」も4～5割程度と比較的高く、日常の業務運営や人間関係に関する項目への関心が高い点に特徴が見られる。なお、「育児や介護のための休みを取りやすくする制度」や「子どもが急に病気になったときに休みやすい体制」については、男性と比べて女性の割合が高いものの、子育てや介護など時間的制約を抱えやすい世代においては、男女ともに実際に活用しやすい環境への関心があることがうかがえる。

また、テレワークなど家庭で働ける仕組みへの期待は60歳未満女性で49.1%と比較的高い水準にある。一方で、特定の制度のみが突出しているわけではなく、休暇取得のしやすさや業務調整などとあわせた環境整備が求められている傾向が見られる。

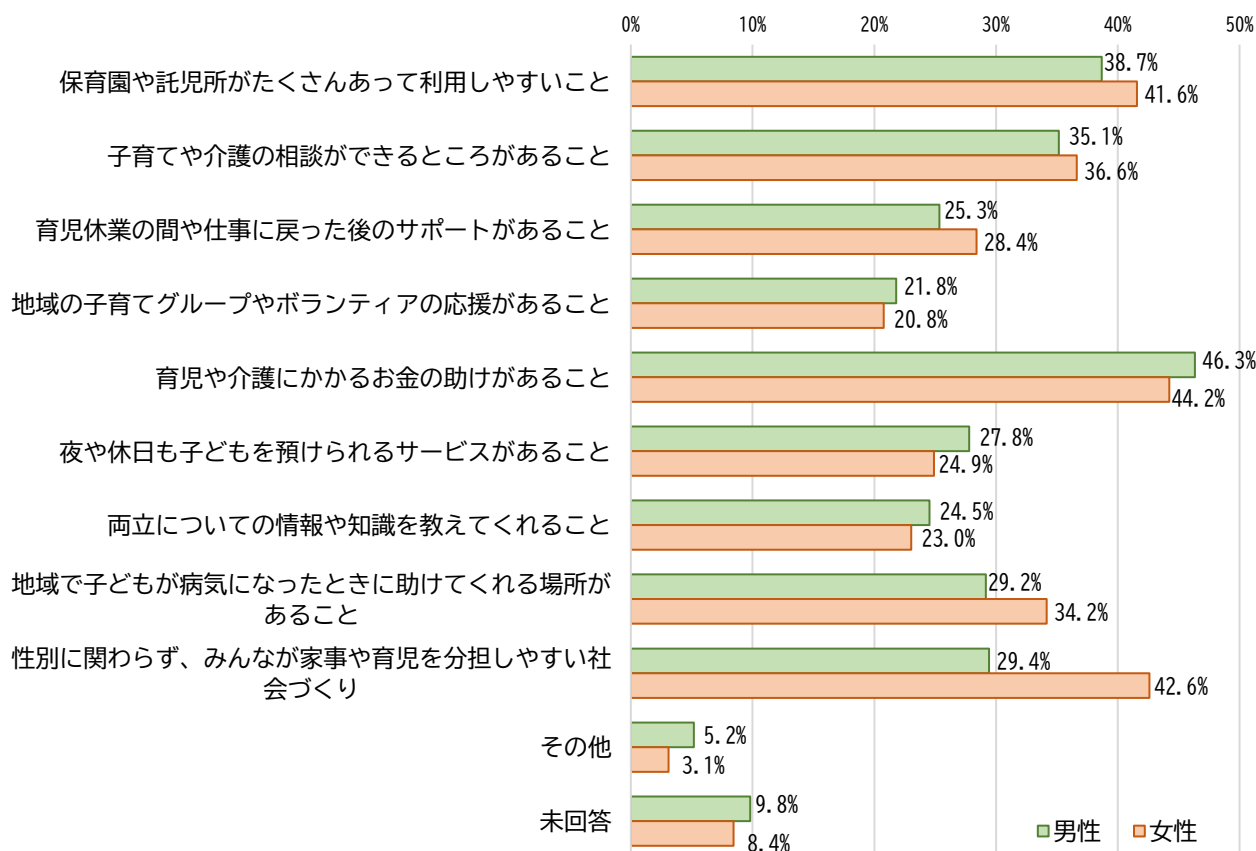
全体と比べると、60歳未満では生活状況に即した支援への関心が相対的に高い傾向にある。

問14 仕事と生活を両立したい人が安心して暮らせるように、【市や地域】でどのような支えがあったらよいと思いますか。【複数回答】

(人) 【参考】

	全体	男性	女性	男性 (60歳未満)	女性 (60歳未満)
保育園や託児所がたくさんあって利用しやすいこと	349	142	202	72	97
子育てや介護の相談ができるところがあること	313	129	178	52	71
育児休業の間や仕事に戻った後のサポートがあること	235	93	138	43	70
地域の子育てグループやボランティアの応援があること	184	80	101	39	41
育児や介護にかかるお金の助けがあること	397	170	215	91	127
夜や休日子どもを預けられるサービスがあること	228	102	121	57	66
両立についての情報や知識を教えてくれること	209	90	112	52	61
地域で子どもが病気になったときに助けてくれる場所があること	281	107	166	60	92
性別に関わらず、みんなが家事や育児を分担しやすい社会づくり	320	108	207	61	102
その他	35	19	15	10	8
未回答	77	36	41	3	1
母数	872	367	486	169	222

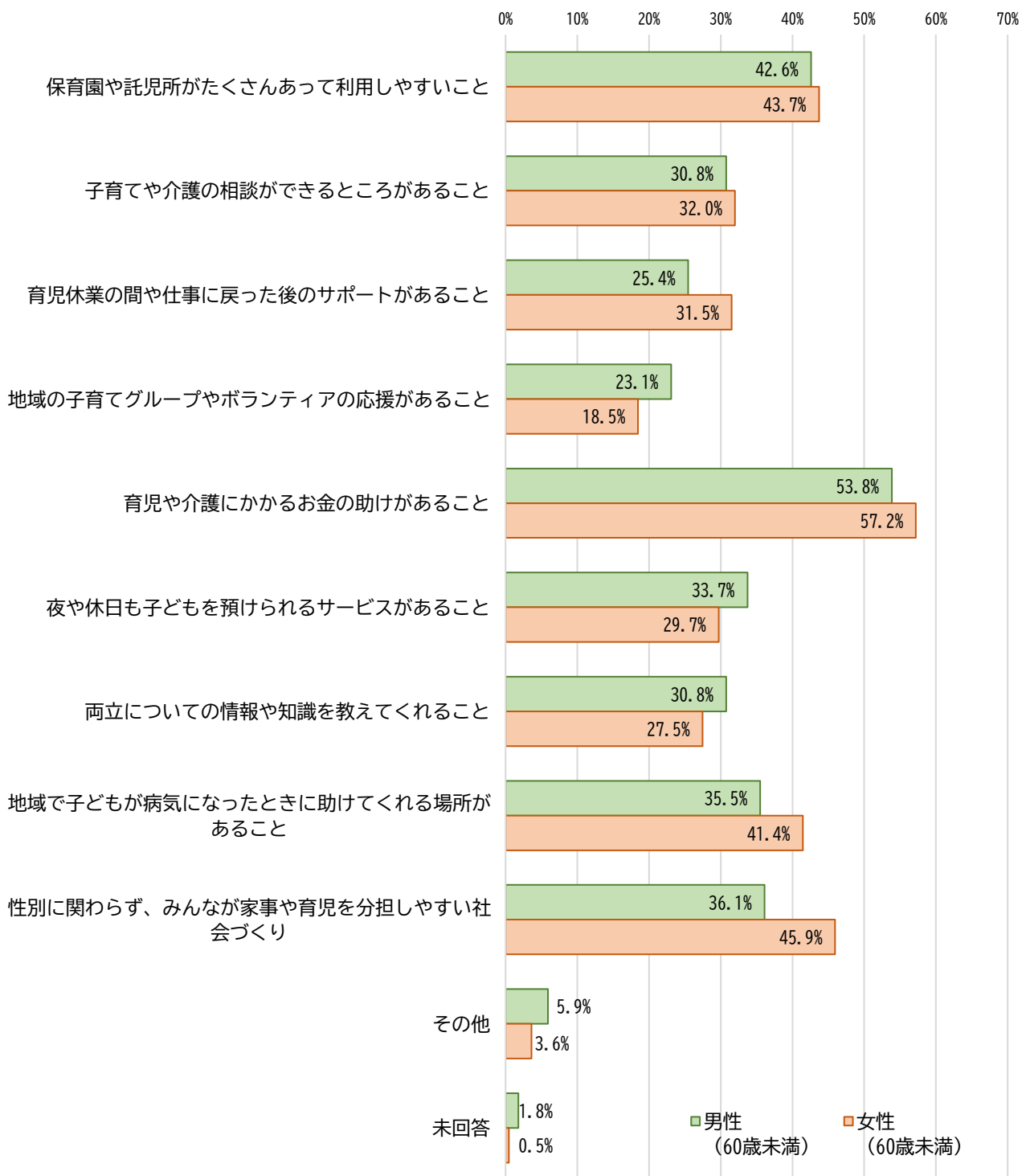
仕事と生活の両立を支える市や地域の支援



全体では、「育児や介護にかかるお金の助け」が男女とも最も高く、次いで「保育園や託児所の利用しやすい」や「子育て・介護の相談先」が3～4割台が続いている。経済的支援と基礎的な保育等環境への関心が高いことがうかがえる。また、「性別に関わらず家事や育児を分担しやすい社会づくり」は女性が男性を上回っており、意識面でのニーズ差がみられる。

【参考】

仕事と生活の両立を支える市や地域の支援（60歳未満）



60歳未満では、「育児や介護にかかるお金の助け」が男女とも全体より高く、特に女性では57.2%と高い割合を示している。また、「保育園や託児所の利用しやすさ」や「子どもが病気になったときに助けてくれる場所」についても、全体より高い水準にある。

「性別に関わらず家事や育児を分担しやすい社会づくり」は男女とも全体より高いが、男性でより上昇幅が大きく、男女の意識差はこの世代では全体より小さい特徴が見られる。一方、復職支援など一部の項目では、全体と大きな差は見られない。

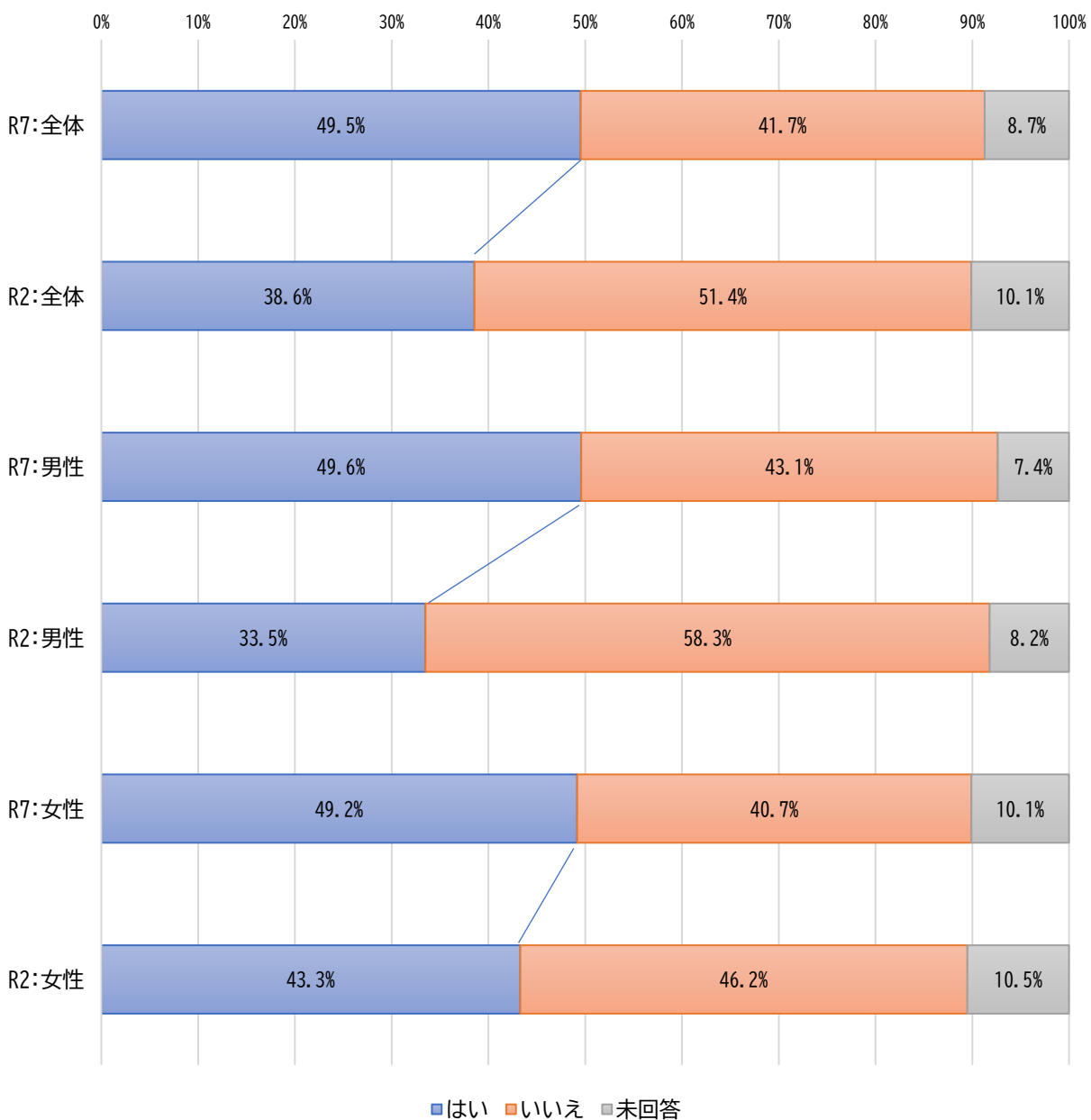
総じて60歳未満では、子育てや生活に直接関わる支援において全体よりもニーズがやや強く表れており、こうした結果は子育て期にある層の実態や負担感が反映されている可能性を示している。

## 5 相談・支援ニーズについて

問15 仕事や生活、DV・ハラスメント・差別などの各種悩みについて、電話や面談などで相談できる窓口があることをご存じですか。【単数回答】

	全体	男性	女性
はい	432	182	239
いいえ	364	158	198
未回答	76	27	49
	872	367	486

相談窓口の認知状況



相談窓口の認知度は、男女とも約5割が「はい(知っている)」と回答した。相談内容を幅広く捉えた設問とした中でも、認知は一定水準にあり、困難を抱えた際に相談につながる環境が整いつつあることがうかがえる。  
一方、「いいえ(知らない)」と回答した人も男女とも約4割を占めており、認知にはばらつきが見られる。

問16 次のような困難を経験したことはありますか。【複数回答】

R2:1・2度あった、何度もあったの合計

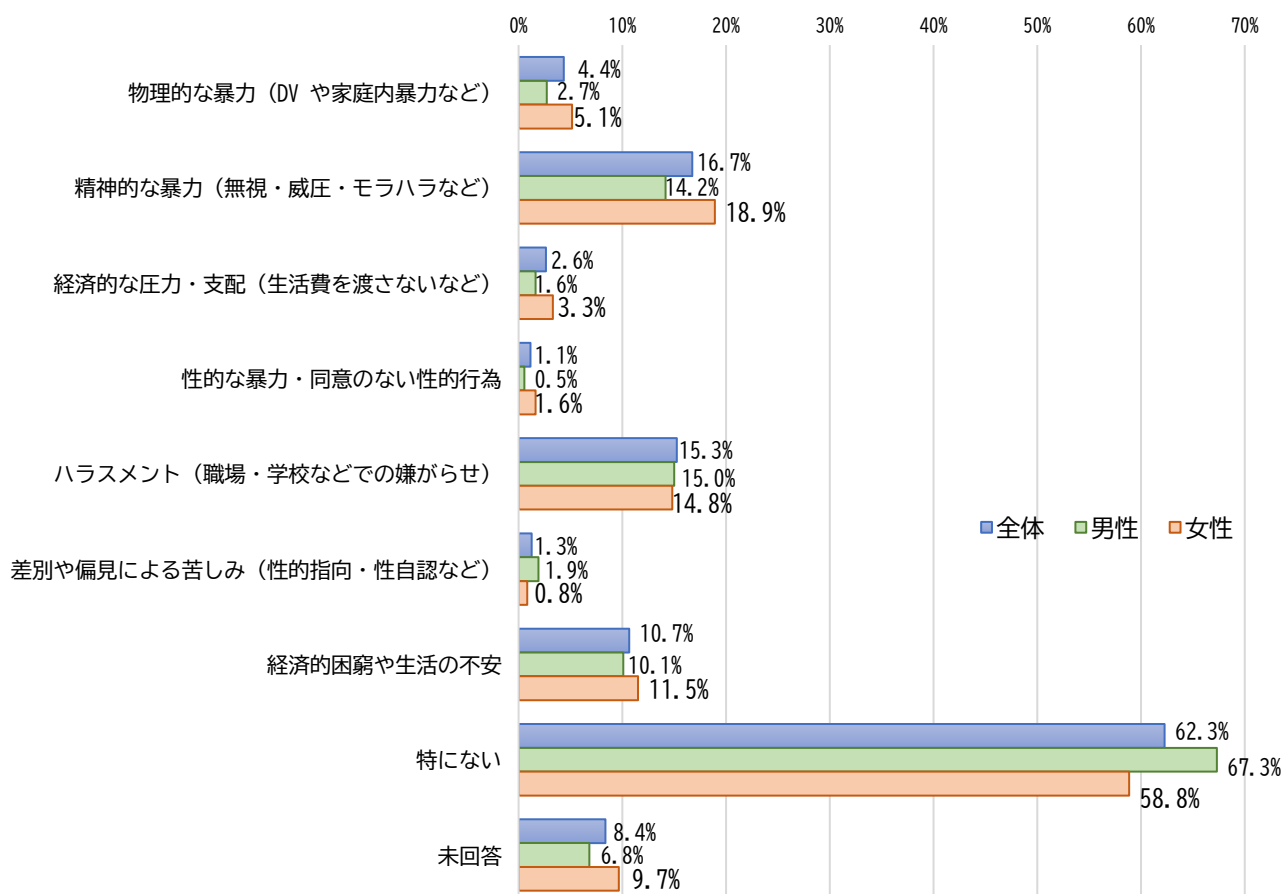
	(人)		【参考】		(人)		【参考】	
	全体	R2	男性	R2	女性	R2		
物理的な暴力(DV や家庭内暴力など)	38	4.4%	10	2.7%	25	5.1%	12.1%	
精神的な暴力(無視・威圧・モラハラなど)	146	16.7%	52	14.2%	92	18.9%	22.8%	
経済的な圧力・支配(生活費を渡さないなど)	23	2.6%	6	1.6%	16	3.3%	7.7%	
性的な暴力・同意のない性的行為	10	1.1%	2	0.5%	8	1.6%	7.5%	
ハラスメント(職場・学校などでの嫌がらせ)	133	15.3%	55	15.0%	72	14.8%		
差別や偏見による苦しみ(性的指向・性自認など)	11	1.3%	7	1.9%	4	0.8%		
経済的困窮や生活の不安	93	10.7%	37	10.1%	56	11.5%		
特にない	543	62.3%	247	67.3%	286	58.8%		
未回答	73	8.4%	25	6.8%	47	9.7%		

母数 872

367

486

困難な状況の経験



困難の内容を見ると、「特にない」が男女とも6割前後を占める一方、精神的な暴力やハラスメントを経験した人は1～2割程度確認され、物理的な暴力より高い割合となっている。特に精神的な暴力は女性でやや多い傾向があるが、男性にも一定数確認される。全体として多数ではないものの、精神的な負担を伴う困難が性別を問わず存在していることがうかがえる。

問17 【問16で「特にない」「未回答」以外の方】それらについて、どこかに相談したことがありますか。【複数回答】

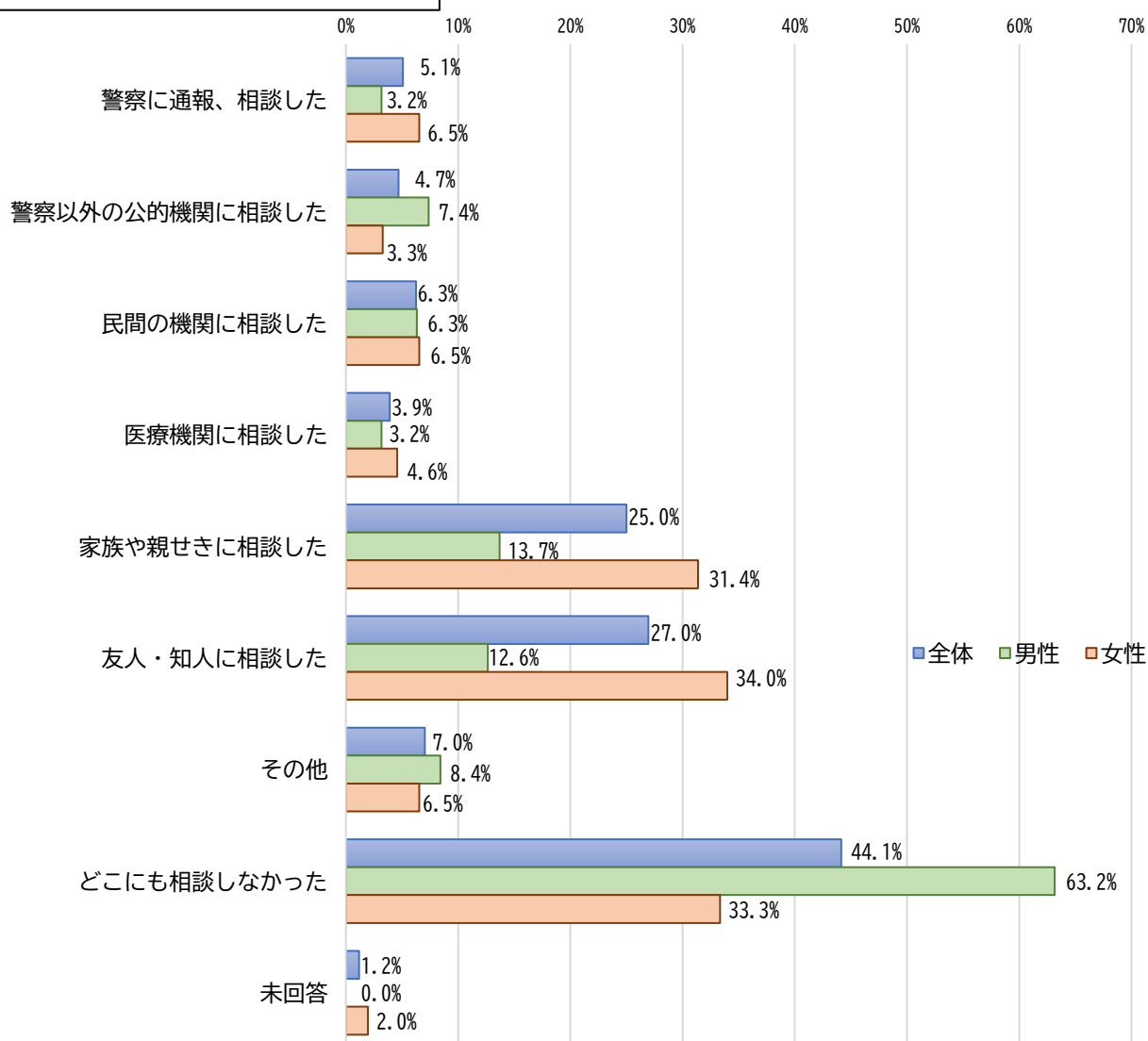
	(人)		【参考】		(人)		【参考】	
	全体	R2	男性	R2	女性	R2		
警察に通報、相談した	13	5.1%	3	3.2%	10	6.5%	3.2%	
警察以外の公的機関に相談した	12	4.7%	7	7.4%	5	3.3%	1.9%	
民間の機関に相談した	16	6.3%	6	6.3%	10	6.5%	1.6%	
医療機関に相談した	10	3.9%	3	3.2%	7	4.6%	0.3%	
家族や親せきに相談した	64	25.0%	13	13.7%	48	31.4%	21.0%	
友人・知人に相談した	69	27.0%	12	12.6%	52	34.0%	21.9%	
その他	18	7.0%	8	8.4%	10	6.5%	1.0%	
どこにも相談しなかった	113	44.1%	60	63.2%	51	33.3%	60.3%	
未回答	3	1.2%	0	0.0%	3	2.0%	3.2%	

母数 256

95

153

困難な状況に直面した際の相談先



困難に直面した際の相談行動を見ると、「どこにも相談しなかった」割合は男性で63.2%と、女性の33.3%を大きく上回っている。女性は友人や家族など身近な人に相談する傾向が見られるのに対し、男性は相談行動そのものが少ない状況がうかがえる。公的機関や専門機関への相談はいずれの性別でも低水準にとどまっており、支援が十分に活用されていない可能性も考えられる。背景としては、相談に対する心理的ハードルや支援の内容・存在が分かりにくいことなどが影響している可能性があり、誰もが安心して相談できる導線づくりの必要性がうかがえる。

問17-1 【問17で「どこにも相談しなかった」と回答した方へ】相談しなかった理由を教えてください。【複数回答】

	(人)		【参考】	(人)		【参考】	(人)		【参考】
	全体		R2	男性		R2	女性		R2
どこに相談してよいかわからなかった	28	24.8%	8.4%	14	23.3%	9.1%	14	27.5%	8.4
相談しても無駄だと思ったから	73	64.6%	21.1%	44	73.3%	26.1%	28	54.9%	17.4
相談したことが分かると仕返しされると 思ったから	11	9.7%	3.5%	6	10.0%	2.3%	4	7.8%	3.2
自分さえ我慢すればよいと思ったから	37	32.7%	26.7%	12	20.0%	21.6%	25	49.0%	27.4
相談するほどの事でもないと思ったから	21	18.6%	60.4%	8	13.3%	68.2%	12	23.5%	57.4
プライバシーが守られないと思ったから	25	22.1%		14	23.3%		10	19.6%	
その他	9	8.0%	3.2%	5	8.3%	1.1%	4	7.8%	3.7
未回答	0	0.0%	2.1%	0	0.0%	0.0%	0	0.0%	3.2

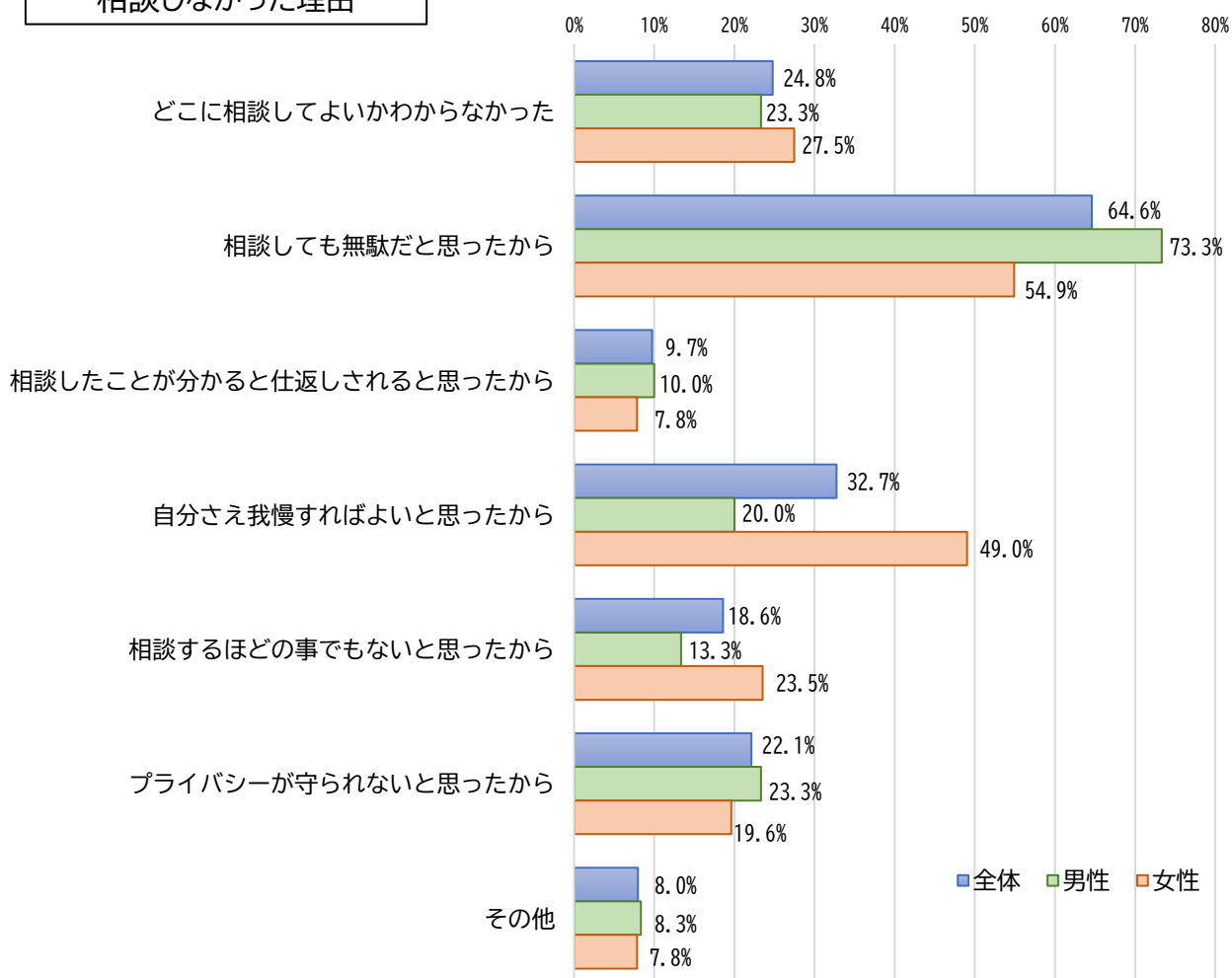
母数 113

60

51

※R2は「自分にも悪いところがあると思ったから」「恥ずかしくて誰にも言えなかった」の選択肢あり

相談しなかった理由

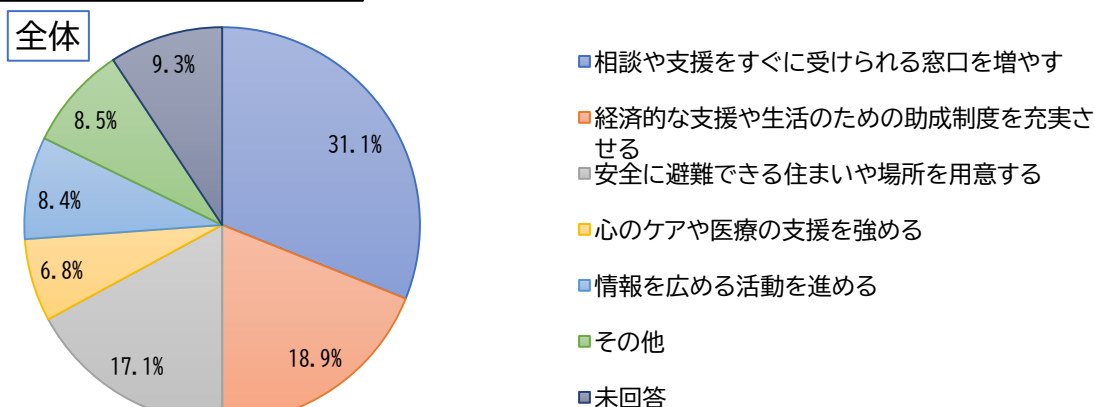


どこにも相談しなかった理由については、男女とも「相談しても無駄だと思ったから」が最も多く、特に男性で7割を超えている。また、「どこに相談してよいかわからなかった」は男女とも2割を超えており、相談先のわかりにくさも共通課題と見られる。一方、女性では「自分さえ我慢すればよい」「相談するほどの事でもない」といった回答が男性より多く、困難を個人の問題として抱え込みやすい傾向がうかがえる。こうした意識は相談行動を抑制する要因となり、支援につながりにくい構造を生んでいると考えられる。

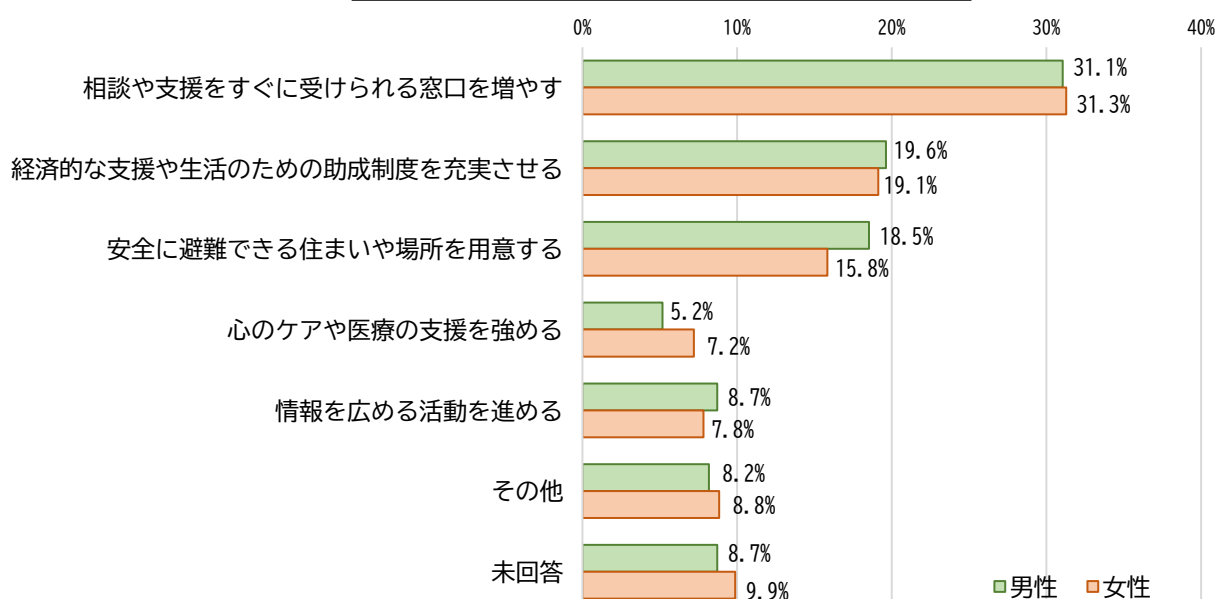
問18 様々な困難のうち、特に女性の割合が高い被害や課題(DVや経済的困難など)への支援として、市は特にどのような対策を進めるべきだと思いますか。【単数回答】

	(人)		(人)		(人)	
	全体		男性		女性	
相談や支援をすぐに受けられる窓口を増やす	271	31.1%	114	31.1%	152	31.3%
経済的な支援や生活のための助成制度を充実させる	165	18.9%	72	19.6%	93	19.1%
安全に避難できる住まいや場所を用意する	149	17.1%	68	18.5%	77	15.8%
心のケアや医療の支援を強める	59	6.8%	19	5.2%	35	7.2%
情報を広める活動を進める	73	8.4%	32	8.7%	38	7.8%
その他	74	8.5%	30	8.2%	43	8.8%
未回答	81	9.3%	32	8.7%	48	9.9%
	872		367		486	

困難な状況にある人への市の支援策



困難な状況にある人への市の支援策

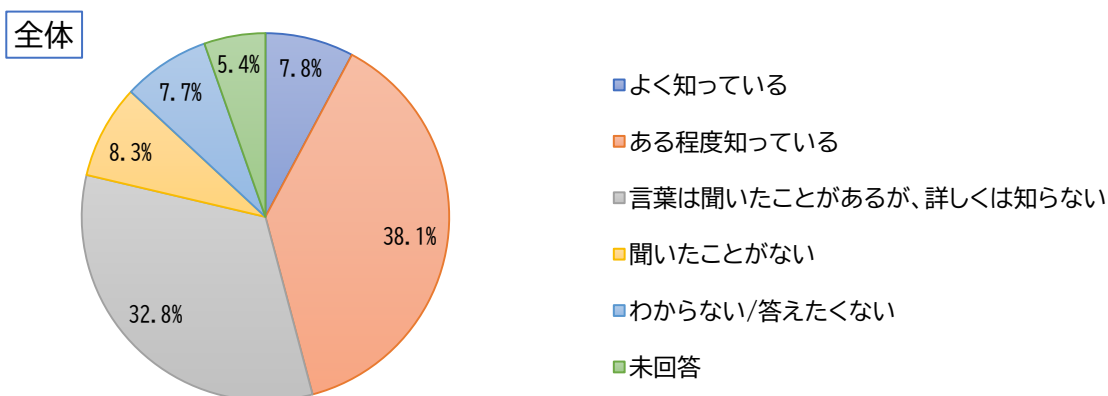


市に期待する支援を見ると、男女とも「相談や支援をすぐに受けられる窓口を増やす」が約3割と最も高く、次いで「経済的な支援」が約2割となっており、困難に直面した際に早期に支援へつながる体制へのニーズが共通している。また、安全な住まいの確保についても男女差は小さく、生活基盤を支える施策への期待がうかがえる。一方、女性では心のケア、男性では情報発信への期待がやや高く、支援内容の周知や多様な支援メニューの提示が、利用につながる重要な要素と考えられる。

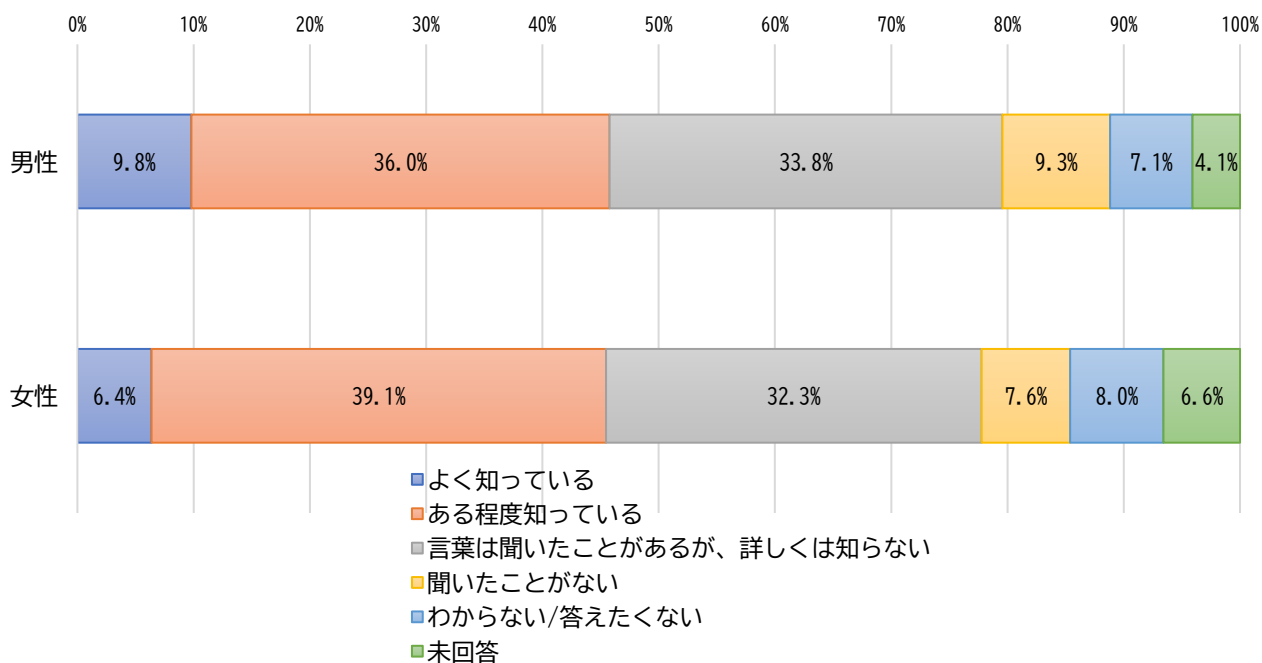
問19 LGBTQなど多様な性のあり方について、どの程度ご存知ですか。【単数回答】

	(人)		(人)		(人)	
	全体		男性		女性	
よく知っている	68	7.8%	36	9.8%	31	6.4%
ある程度知っている	332	38.1%	132	36.0%	190	39.1%
言葉は聞いたことがあるが、詳しくは知らない	286	32.8%	124	33.8%	157	32.3%
聞いたことがない	72	8.3%	34	9.3%	37	7.6%
わからない/答えたくない	67	7.7%	26	7.1%	39	8.0%
未回答	47	5.4%	15	4.1%	32	6.6%
	872		367		486	

多様な性のあり方に関する認知度



多様な性のあり方に関する認知度

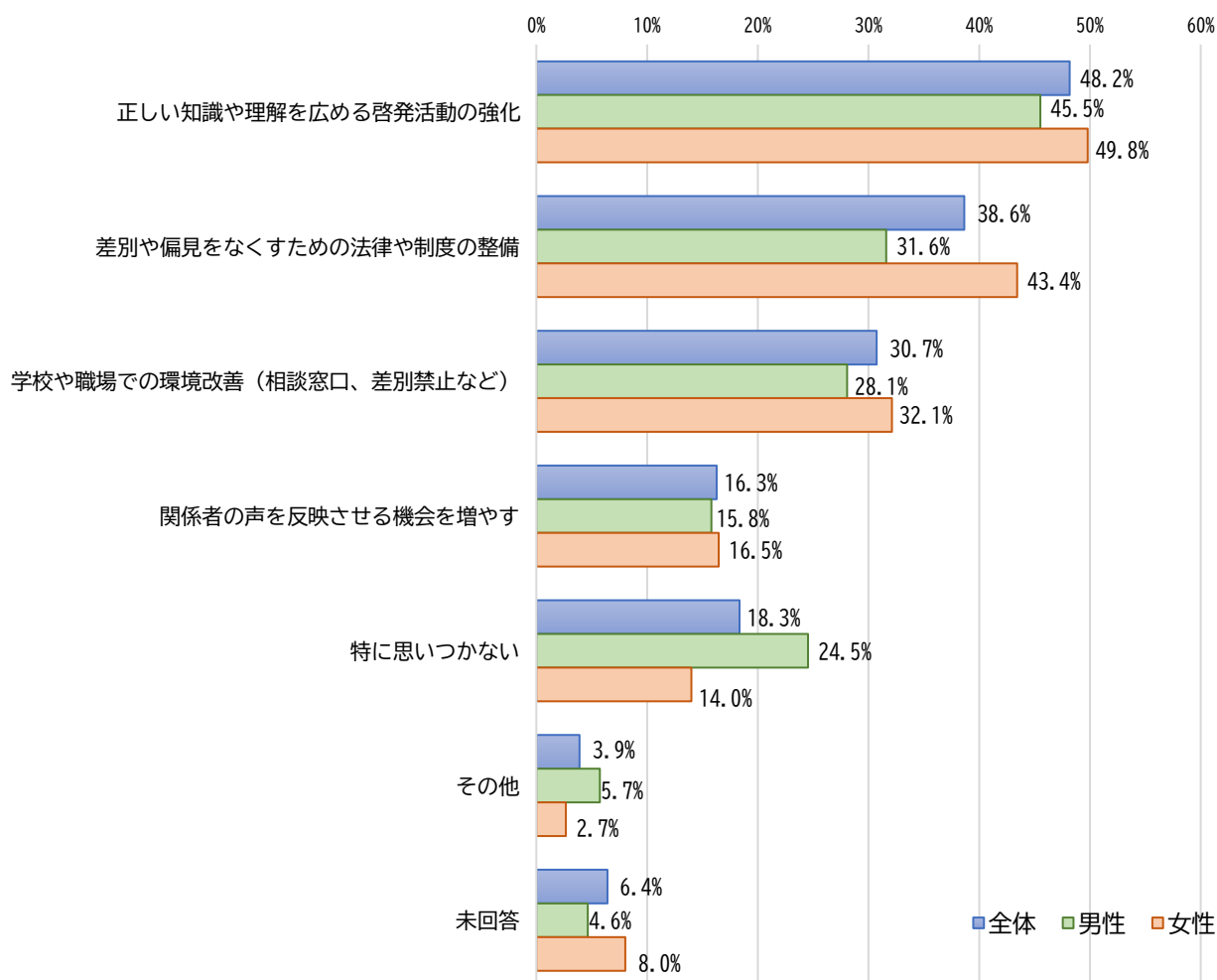


「よく知っている」「ある程度知っている」と回答した人は合わせて男女とも約5割となっており、認知は一定程度広がっていることがうかがえる。一方で、「詳しくは知らない」と「聞いたことがない」と回答した層も約4割おり、認知の程度には幅があることが見て取れる。このことから、個々人の関心や理解の程度には差があり、認知の広がり方には一定の幅があることがうかがえる。

問20 LGBTQをはじめ多様なマイノリティ(少数派)の方が、自分らしく暮らせる社会にするには、どのようなことが必要だと思いますか。【複数回答】

	(人)		(人)		(人)	
	全体		男性		女性	
正しい知識や理解を広める啓発活動の強化	420	48.2%	167	45.5%	242	49.8%
差別や偏見をなくすための法律や制度の整備	337	38.6%	116	31.6%	211	43.4%
学校や職場での環境改善(相談窓口、差別禁止など)	268	30.7%	103	28.1%	156	32.1%
関係者の声を反映させる機会を増やす	142	16.3%	58	15.8%	80	16.5%
特に思いつかない	160	18.3%	90	24.5%	68	14.0%
その他	34	3.9%	21	5.7%	13	2.7%
未回答	56	6.4%	17	4.6%	39	8.0%
母数	872		367		486	

性や生き方の多様性を尊重する社会の実現に向けた意見

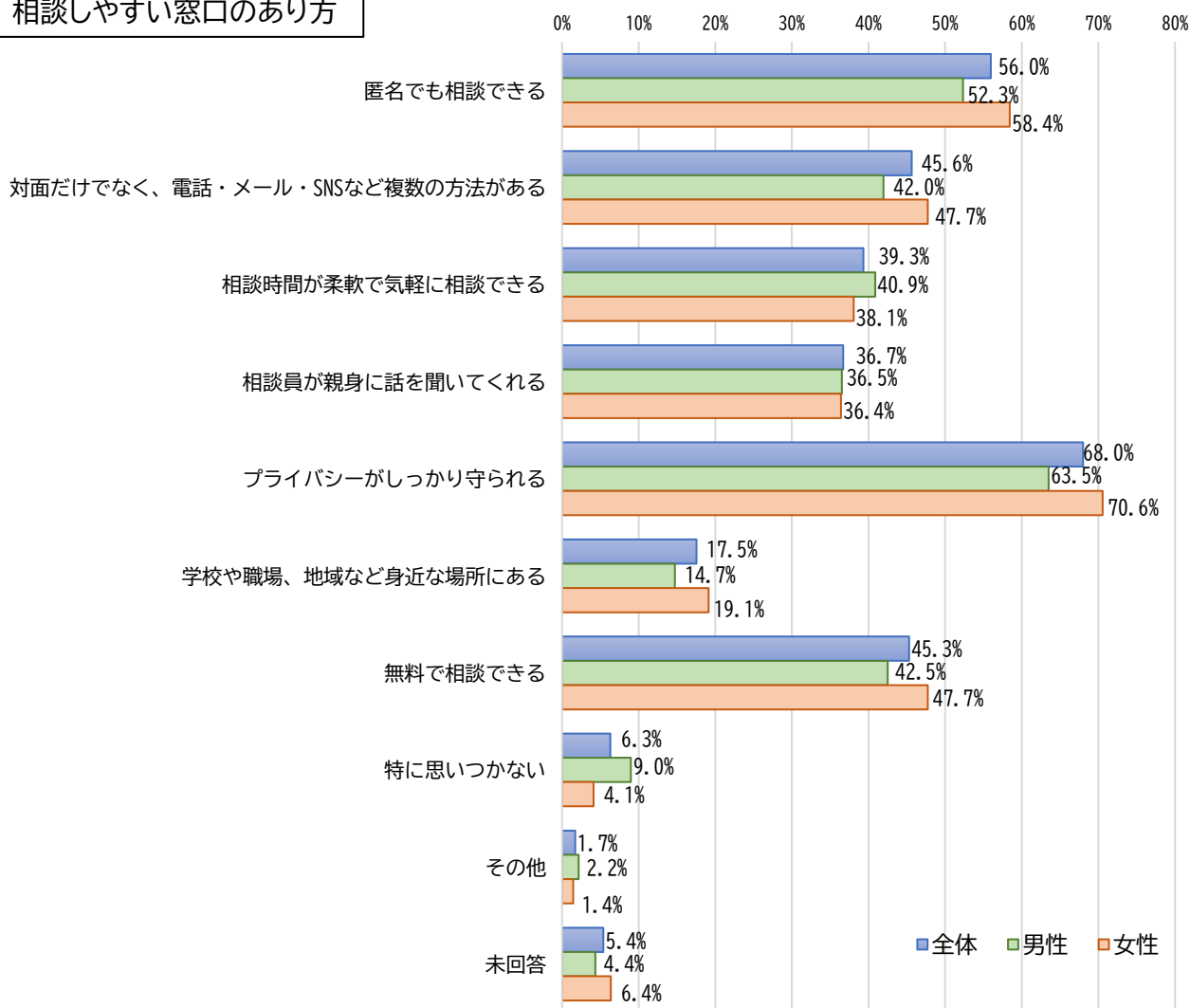


男女とも「正しい知識や理解を広める啓発活動の強化」が約5割と最も高く、関心の高さがうかがえる。次いで、「差別や偏見をなくすための法律や制度の整備」は女性で4割強、男性で約3割となっており、若干の差はあるものの制度面への関心も一定程度見られる。また、学校や職場での相談窓口や差別防止など、身近な環境整備を挙げる回答も男女とも3割前後みられ、意識啓発と制度・環境整備の両面に関心が向けられている傾向がうかがえる。

問21 DVや経済的困難、性のあり方、体や心の障害など、様々な理由で困りごとを抱える人が、相談しやすいと思える窓口とは、どのようなものでしょうか。【複数回答】

	(人) 全体		(人) 男性		(人) 女性	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
匿名でも相談できる	488	56.0%	192	52.3%	284	58.4%
対面だけでなく、電話・メール・SNSなど複数の方法がある	398	45.6%	154	42.0%	232	47.7%
相談時間が柔軟で気軽に相談できる	343	39.3%	150	40.9%	185	38.1%
相談員が親身に話を聞いてくれる	320	36.7%	134	36.5%	177	36.4%
プライバシーがしっかり守られる	593	68.0%	233	63.5%	343	70.6%
学校や職場、地域など身近な場所にある	153	17.5%	54	14.7%	93	19.1%
無料で相談できる	395	45.3%	156	42.5%	232	47.7%
特に思いつかない	55	6.3%	33	9.0%	20	4.1%
その他	15	1.7%	8	2.2%	7	1.4%
未回答	47	5.4%	16	4.4%	31	6.4%
母数	872		367		486	

相談しやすい窓口のあり方



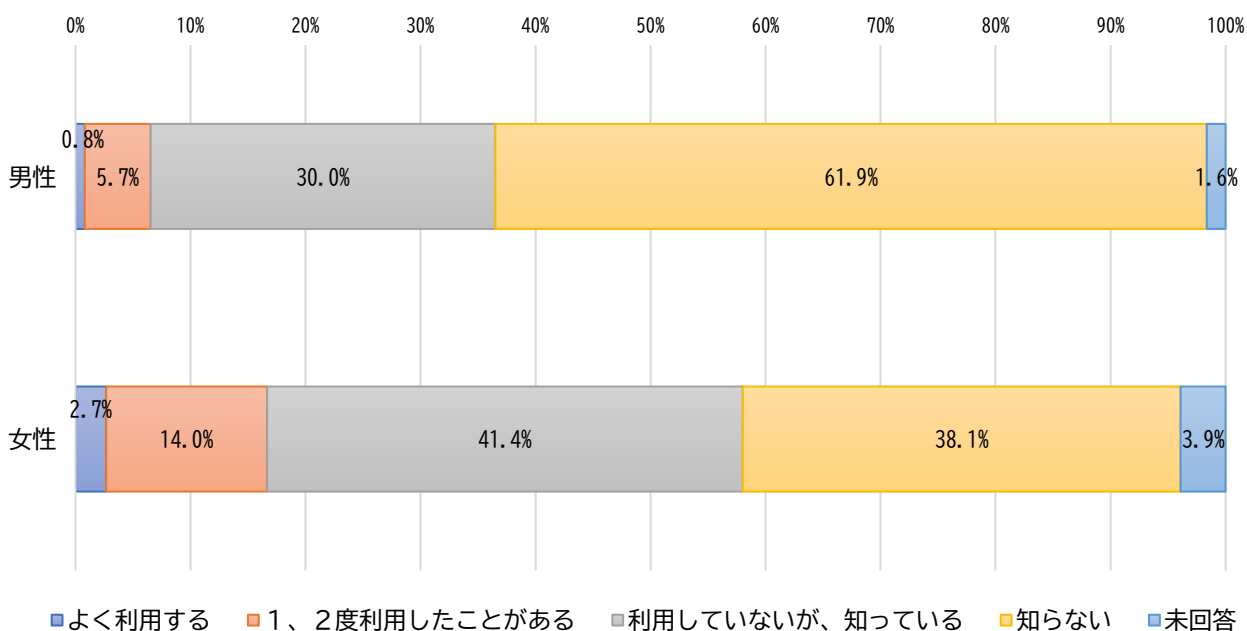
男女とも「プライバシーがしっかり守られる」や「匿名でも相談できる」を重視しており、特に女性では7割がプライバシー保護を挙げている。あわせて、電話やメール、SNSなど対面以外の相談手段を挙げる回答も4割を超えている。これらの結果から、安心して利用できる環境づくりや多様な相談手段への対応が求められている状況がうかがえる。

## 6 市政について

問22 「らぼーるひたち(女性センター)」(日立市の男女共同参画のまちづくり拠点施設)を利用したことはありますか。【単数回答】

	(人)		(人)		(人)	
	全体		男性		女性	
よく利用する	17	1.9%	3	0.8%	13	2.7%
1、2度利用したことがある	92	10.6%	21	5.7%	68	14.0%
利用していないが、知っている	316	36.2%	110	30.0%	201	41.4%
知らない	422	48.4%	227	61.9%	185	38.1%
未回答	25	2.9%	6	1.6%	19	3.9%
	872		367		486	

らぼーるひたち(女性センター)の利用状況



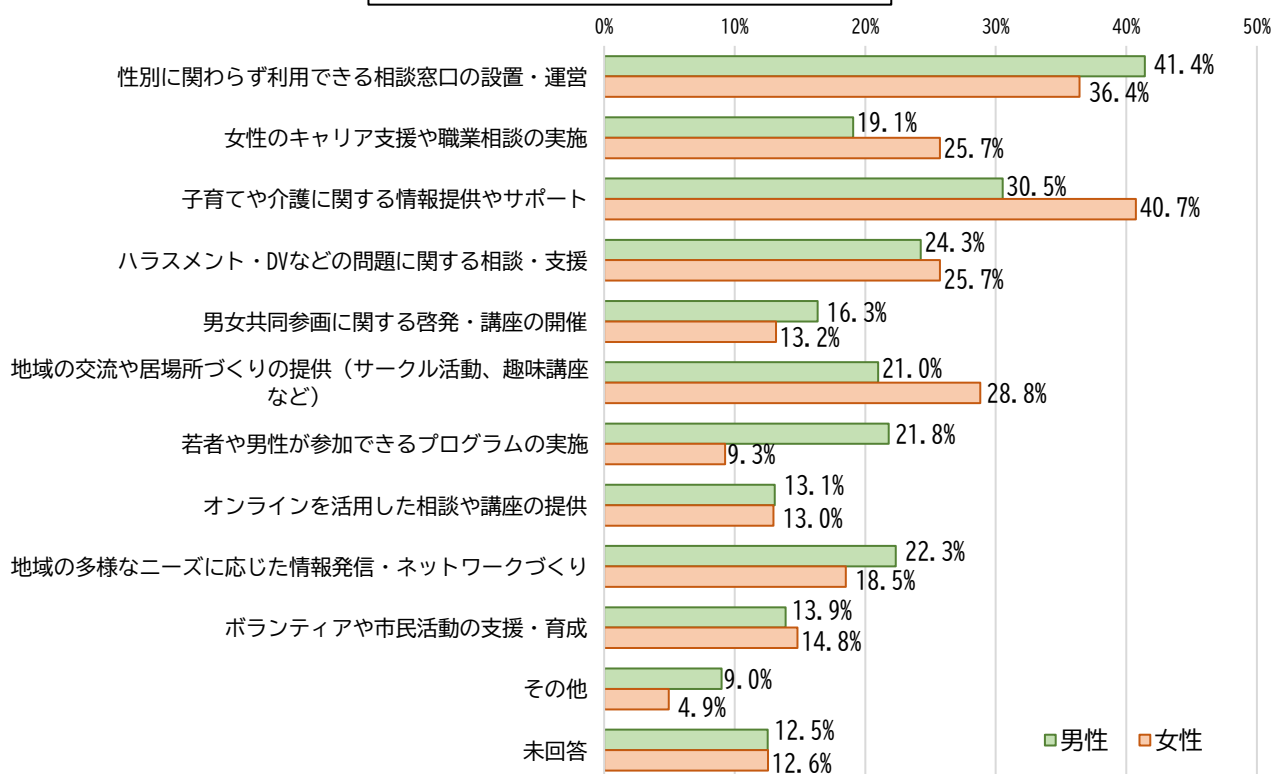
	よく利用する	1、2度利用したことがある	利用していないが、知っている	知らない	未回答
R7:全体	1.9%	10.6%	36.2%	48.4%	2.9%
R7:男性	0.8%	5.7%	30.0%	61.9%	1.6%
R7:女性	2.7%	14.0%	41.4%	38.1%	3.9%
R2:全体	2.7%	12.9%	42.0%	37.2%	5.2%
R2:男性	2.2%	7.4%	40.7%	45.2%	4.4%
R2:女性	3.1%	17.5%	43.6%	30.9%	4.8%

利用経験は、男性6.5%、女性16.7%と相対的に女性で高いものの、いずれも高い水準とはいえない。女性では「利用していないが知っている」が41.4%と一定数見られるため、利用には至っていないものの、一定の認知はあることがうかがえる。男性では「知らない」が61.9%と6割を超えており、認知度の低さが顕著である。前回(R2)調査と比較すると、利用者は1~2ポイント、知名度は約5ポイント低下しており、利用や認知の状況に若干の変化が見られる。

問23 「らぼーるひたち(女性センター)」に期待する役割を教えてください。【複数回答】

	(人)		(人)		(人)	
	全体		男性		女性	
性別に関わらず利用できる相談窓口の設置・運営	338	38.8%	152	41.4%	177	36.4%
女性のキャリア支援や職業相談の実施	203	23.3%	70	19.1%	125	25.7%
子育てや介護に関する情報提供やサポート	321	36.8%	112	30.5%	198	40.7%
ハラスメント・DVなどの問題に関する相談・支援	225	25.8%	89	24.3%	125	25.7%
男女共同参画に関する啓発・講座の開催	132	15.1%	60	16.3%	64	13.2%
地域の交流や居場所づくりの提供(サークル活動、趣味講座など)	225	25.8%	77	21.0%	140	28.8%
若者や男性が参加できるプログラムの実施	130	14.9%	80	21.8%	45	9.3%
オンラインを活用した相談や講座の提供	117	13.4%	48	13.1%	63	13.0%
地域の多様なニーズに応じた情報発信・ネットワークづくり	178	20.4%	82	22.3%	90	18.5%
ボランティアや市民活動の支援・育成	129	14.8%	51	13.9%	72	14.8%
その他	59	6.8%	33	9.0%	24	4.9%
未回答	107	12.3%	46	12.5%	61	12.6%
母数	872		367		486	

らぼーるひたちに期待する役割

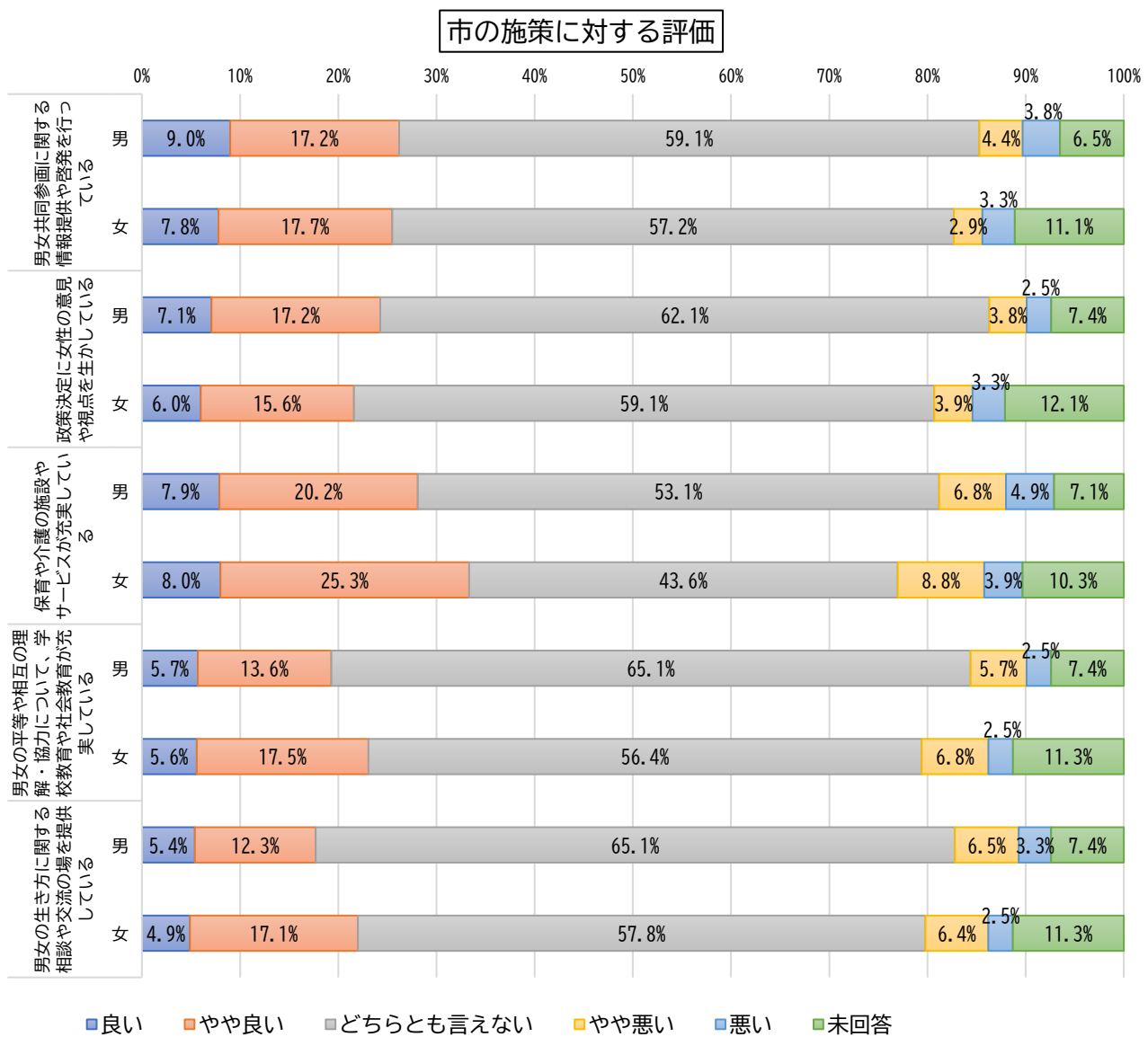


男女とも、性別を問わず利用できる相談窓口としての機能への期待が高く、安心して悩みを相談できる場としての役割が求められていることがうかがえる。女性では子育てや介護、地域活動やキャリア支援など生活に身近な支援への関心が高く、男性では若者や男性が参加できるプログラム、情報発信や学習機会提供への関心が相対的に高い傾向が見られる。

全体として、多様な市民が関わりやすい拠点としての役割に期待が集まっていることがうかがえる。

問24 次の市の施策について、評価をお聞かせください。【それぞれ単数回答】

		良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答
男女共同参画に関する情報提供や啓発を行っている	男	33	63	217	16	14	24
	女	38	86	278	14	16	54
政策決定に女性の意見や視点を生かしている	男	26	63	228	14	9	27
	女	29	76	287	19	16	59
保育や介護の施設やサービスが充実している	男	29	74	195	25	18	26
	女	39	123	212	43	19	50
男女の平等や相互の理解・協力について、学校教育や社会教育が充実している	男	21	50	239	21	9	27
	女	27	85	274	33	12	55
男女の生き方に関する相談や交流の場を提供している	男	20	45	239	24	12	27
	女	24	83	281	31	12	55



男性(n=367) 女性(n=486)

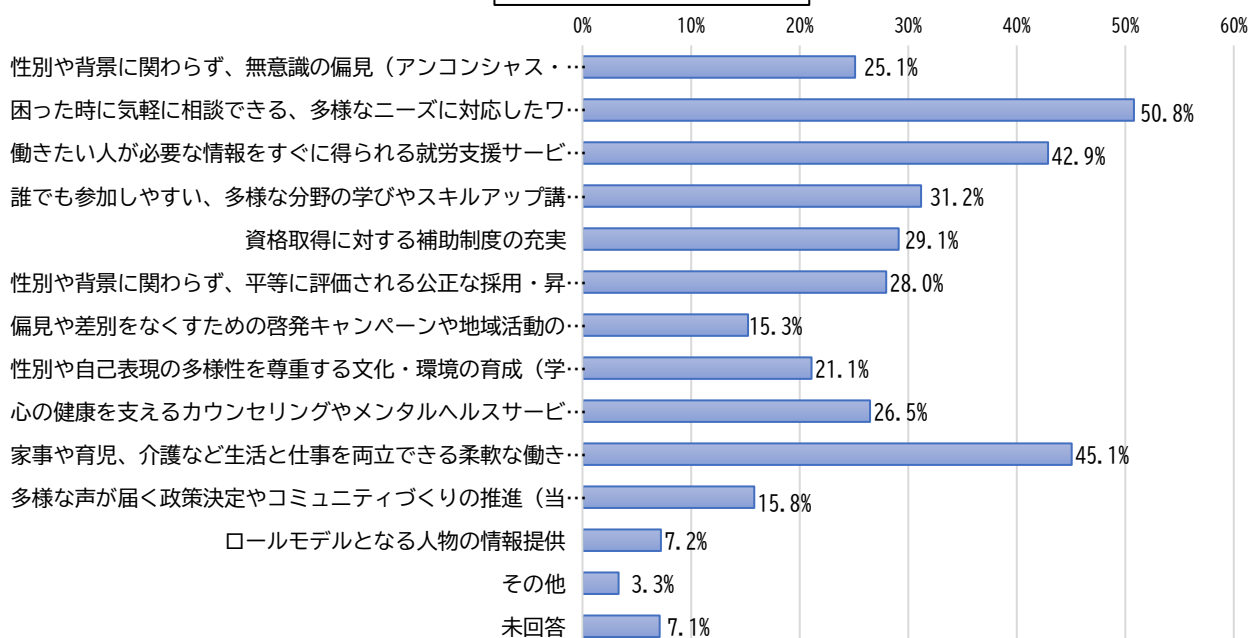
市の施策全体については、「どちらとも言えない」が各項目で5割前後を占めており、取組の内容や成果が市民に十分伝わっていない状況がうかがえる。保育・介護分野では「良い」「悪い」の双方が他項目より多く、評価が分かれているものの、強い否定的評価は限定的である。施策に対する理解や実感にはばらつきが見られ、分野を問わず、取組の内容や成果が市民に分かりやすく伝わっているとは言えない状況が見て取れる。

問25 あなたは市に対して、男女共同参画社会の実現に関してどのような施策を期待しますか。  
【複数回答】

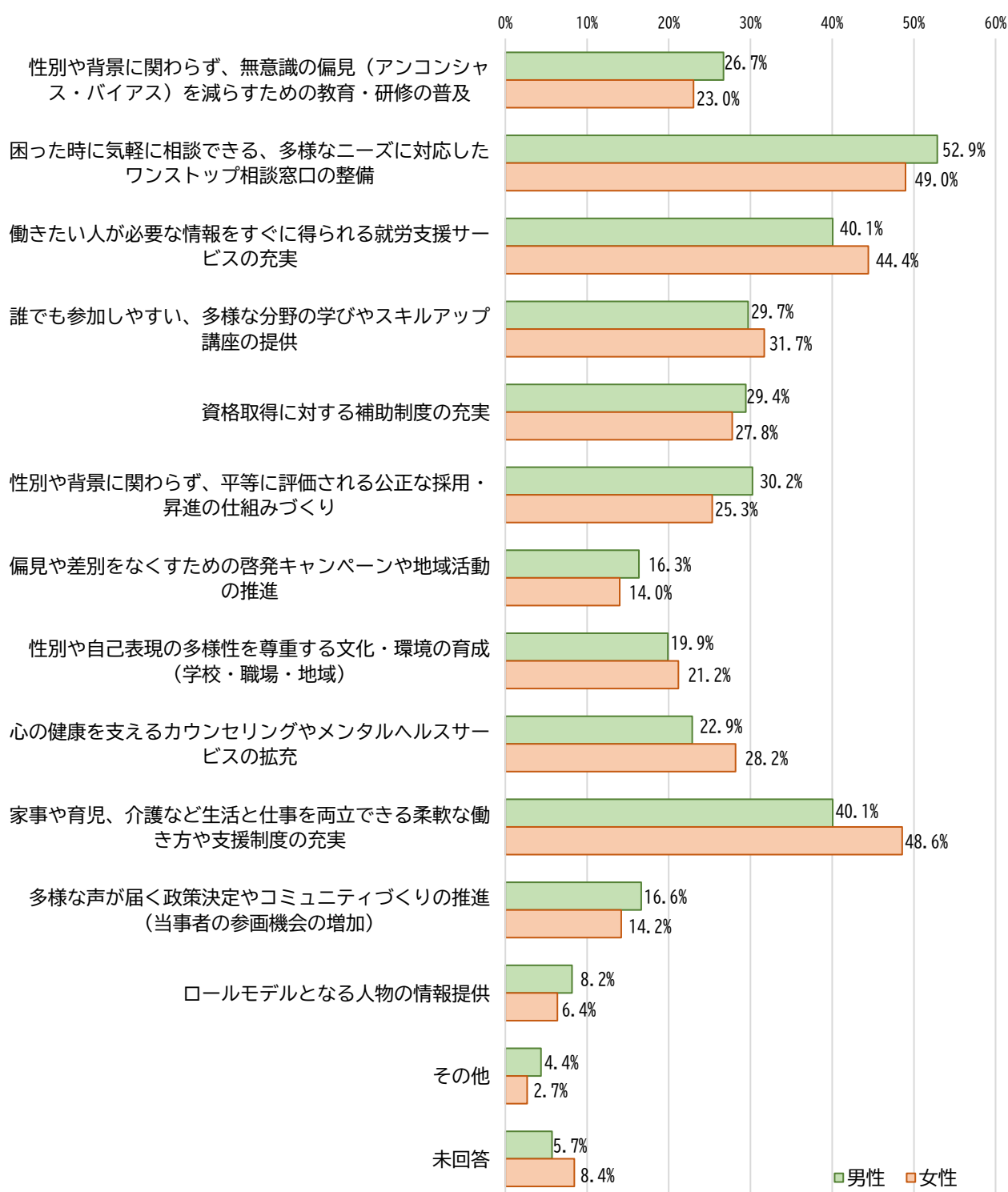
	(人)		(人)		(人)	
	全体		男性		女性	
性別や背景に関わらず、無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)を減らすための教育・研修の普及	219	25.1%	98	26.7%	112	23.0%
困った時に気軽に相談できる、多様なニーズに対応したワンストップ相談窓口の整備	443	50.8%	194	52.9%	238	49.0%
働きたい人が必要な情報をすぐに得られる就労支援サービスの充実	374	42.9%	147	40.1%	216	44.4%
誰でも参加しやすい、多様な分野の学びやスキルアップ講座の提供	272	31.2%	109	29.7%	154	31.7%
資格取得に対する補助制度の充実	254	29.1%	108	29.4%	135	27.8%
性別や背景に関わらず、平等に評価される公正な採用・昇進の仕組みづくり	244	28.0%	111	30.2%	123	25.3%
偏見や差別をなくすための啓発キャンペーンや地域活動の推進	133	15.3%	60	16.3%	68	14.0%
性別や自己表現の多様性を尊重する文化・環境の育成(学校・職場・地域)	184	21.1%	73	19.9%	103	21.2%
心の健康を支えるカウンセリングやメンタルヘルスサービスの拡充	231	26.5%	84	22.9%	137	28.2%
家事や育児、介護など生活と仕事を両立できる柔軟な働き方や支援制度の充実	393	45.1%	147	40.1%	236	48.6%
多様な声が届く政策決定やコミュニティづくりの推進(当事者の参画機会の増加)	138	15.8%	61	16.6%	69	14.2%
ロールモデルとなる人物の情報提供	63	7.2%	30	8.2%	31	6.4%
その他	29	3.3%	16	4.4%	13	2.7%
未回答	62	7.1%	21	5.7%	41	8.4%

母数 872 367 486

市政への要望(全体)



## 市政への要望(男女別)



市に期待する施策を見ると、男女とも「ワンストップ相談窓口の整備」が最も高く、男性52.9%、女性49.0%が重要と回答している。次いで「就労支援サービスの充実」(男性40.1%、女性44.4%)や「両立に係る支援制度の充実」(男性40.1%、女性48.6%)が4割を超えており、困りごとに直面した際や課題解決に向けて行動する際に、早期に支援につながる体制へのニーズが高いことがうかがえる。

また、心のケア(カウンセリングやメンタルヘルスサービス)の充実については、女性28.2%、男性22.9%と女性の方が関心がやや高い。一方、男性は公正な採用・昇進や無意識の偏見を減らす教育研修など、制度や意識改革に関する施策への関心が相対的に高い。

これらの結果から、市民ニーズは特定分野に偏らず、相談、就労・生活支援、柔軟な働き方、心のケアを軸とした総合的な支援と、その存在が分かりやすく届く仕組みづくりが求められていると考えられる。

## 7 自由意見(市民の皆様からいただいたご意見)

市民の皆様から多くの自由意見をお寄せいただきました。これらの意見について、内容を整理した上で、傾向が分かるよう主な内容を掲載します。

### (1) 男女平等に関する意識について

1	男女を理由にした差別はなくすべきだが、性別による能力差や個人差を無視した一律の平等には違和感がある。能力や適性を尊重した公平な評価が必要だ。
2	女性活躍の推進には賛成だが、女性優遇が男性差別につながっていると感じる場面もある。本当の男女平等とは何かを改めて整理すべきだ。
3	男女に関わらず、能力のある人が正当に評価され、活躍できる社会を望む。性別を理由に下駄を履かせるような政策には慎重であるべき。
4	固定的な性別役割分担が根強く残っているため、制度や慣行の見直しが必要。一人ひとりの意思と生き方が尊重される社会を期待している。
5	男女共同参画という言葉自体が分かりにくく、何を目指しているのか伝わってこない。名称や説明の工夫が必要。
6	男女平等は重要だが、男女だけでなく世代間格差や経済格差など、より広い不平等の解消と併せて進めるべき。
7	固定的性別役割分担意識を変えるのは難しいため、子どもの頃からの教育で男女平等の意識を育てることが重要だ。

### (2) 家庭生活・地域活動について

1	家事・育児・介護を家庭だけで抱え込まず、地域や行政が支える仕組みが必要だ。相談や支援があれば男女共同参画も進むのではないか。
2	地域活動への参加者が固定化しており、声をかけやすい人に偏りがち。多様な人が関われるよう市の後押しを望む。
3	自治会や地域活動では男女平等の意識が育ってきたが、行政や企業など上位組織では根本的な意識改革が進んでいないと感じる。
4	高齢者やシニアが気軽に集まれる身近な居場所が減っている。徒歩圏内で交流できる場所の整備を望む。
5	子育て世代を支えることは大切だが、そのフォローを担う独身者や子どものいない人への配慮も必要だと思う。
6	空き家や地域資源を活用し、世代間交流や見守りができる地域づくりを進めてほしい。

### (3) 仕事・職業について

1	性別に関わらず、働きやすく安定した雇用環境を整えることが人口減少対策につながるのではないか。
2	女性のひとり親が男性並みに稼げ、安心して働ける職場を増やしてほしい。
3	管理職が男性に偏っている現状を改善し、女性が管理職になりやすい環境整備を求める。
4	育休取得が進む一方で、残された職場の負担が大きい。代替要員や企業への支援策が必要。
5	ブラック企業的な働き方やパワハラへの対策を強化し、安心して働ける職場環境を整えてほしい。
6	シニア世代の働く場を増やし、年齢に関わらず社会参加できる仕組みを求める。
7	地方の実情に合わないフルタイム中心の働き方を改め、事情に応じた働き方を認めてほしい。

#### (4) ワーク・ライフ・バランスについて

1	仕事と家庭の両立が難しく、男女ともに負担が大きい。柔軟な働き方や制度整備が必要だ。
2	男性の家事・育児参加や定時退社を進め、家庭生活との両立を後押ししてほしい。
3	育児・介護など事情により理想通り働けない人も、生き生きと暮らせる社会を目指すべきだ。
4	短時間勤務や多様な働き方を促進し、仕事と育児の両立を支援してほしい。
5	平等を追求しすぎて一部の人に負担が集中しないよう、バランスの取れた施策を求める。
6	ワーク・ライフ・バランスの向上が、少子化対策や定住促進につながると考える。

#### (5) 相談・支援ニーズについて

1	困ったときに気軽に相談できる窓口が分かりにくい。市報以外の方法での周知が必要ではないか。
2	DVやパワハラについて、被害者支援だけでなく、加害者を生まないための啓発も重要だ。
3	平日昼間だけでなく、休日や夜間も相談できる体制を求める。
4	介護認定や福祉サービスの情報が分かりにくく、一覧で確認できる仕組みがほしい。
5	職場や家庭の悩みを安心して相談できる、プライバシー保護の観点から信頼性の高い相談体制を望む。
6	経済的支援や家事支援など、生活負担を軽減する支援の充実を求める。
7	誰もが声を上げやすい、敷居の低い相談窓口の設置を期待する。

#### (6) 市政について

1	男女共同参画計画や施策の内容が市民に伝わっていない。目的や成果を分かりやすく示すべきだ。
2	アンケート結果がどのように政策に反映されるのか、きちんと公表してほしい。
3	人口減少への危機感を持ち、若者の定住や企業誘致など実効性のある施策を進めてほしい。
4	市役所の対応が画一的で柔軟性に欠けるように感じる。市民目線の改善を求める。
5	開かれた市政と積極的な情報公開により、市民の信頼を高めてほしい。

#### (7) その他

1	多様な価値観を認めつつ、誰かが過度に苦しむことのない社会づくりを期待する。
2	性別に限らず、誰もが住みやすく安心して暮らせる「やさしい日立市」を望む。
3	数値目標だけにとらわれず、地域の実情に合った取組を進めるべきだ。形だけの施策ではなく、実効性のある支援を望む。
4	それぞれが身近なところからできる取組を積み重ねることが大切だと感じる。